

【理事会】  
第3号議案

平成21年度

# 事業報告書

 社会福祉法人 御浜町社会福祉協議会

法 人 運 營

事業名		法人運営(組織体制の充実強化)			
財源元		委託 <input type="checkbox"/> 一部補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源			
事業概要	目的	会長をはじめ役員との協働運営への積極的参画を図るとともに、理事会、評議員会の開催ほか役職員による各種委員会等を開催して組織体制の充実を目指す。			
	実施内容	1. 会長(非常勤)主導の組織体制 2. 理事会の開催 3. 評議員会の開催 4. 総務委員会の開催 5. 役職員研修会の開催 6. 正副主任会議の開催			
	達成目標	役職員が一体となって社協運営(経営)を充実させるという意識の高揚を図る。社協本来の使命と役割を再認識させる。理事・監事の経営への参画を図る。職員の資質向上を図る。			
事業実績		1. 会長(非常勤)主導による組織体制を強化 2. 理事会の開催 第1回(5/26) 第2回(6/24) 第3回(9/28) 第4回(11/26) 第5回(3/29) 3. 評議員会の開催 第1回(5/28) 第2回(6/24) 第3回(12/2) 第4回(3/31) 4. 総務委員会の開催 第1回(6/10) 第2回(9/10) 第3回(3/10) 5. 役職員対象 日時:平成22年3月10日(水) 研修会の開催 講師:三重県社会福祉協議会 事務局次長 蒔田勝義 氏 対象:理事及び職員 6. 正副主任会議 毎月1回 の開催			
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 やや必要 不必要			
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい 理事会及び評議員会を例年より多く開催し、活動内容や経営状況の把握を深めていただいたことで、よりよい議論へとつながった。			
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分			
今後(次年度)の課題・改善方法		事務職員レベルでは、事務局長が退職された後の後任が決まっていないため、昨年度以上に法人運営部門と地域福祉部門の業務区分が曖昧になった。これらの担当職員の配置数も含めて見直しをする必要がある。			
特記事項		理事だけでなく、評議員も対象に研修会を開催し、現在の社会福祉について学べる機会の提供も必要と感じる。			
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D			
担当者		芝			

事業名		法人運営(雇用管理・個人情報管理・リスクマネジメント対策)
財源元		委託      補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源
事業概要	目的	職員の雇用管理(労務・健康等)の充実、個人情報の管理の徹底、各種リスクマネジメントへの対応をおこなう。
	実施内容	三重県・県社協・紀南地域等で開催する労務又は雇用に関する各種研修会に参加。また職員の健康診断等を実施し安全な労働環境の整備を図る。
	達成目標	社協の健全な運営又は経営を図っていく。
事業実績		<p>1. 雇用管理関係  社会福祉法人役員・幹部研修会へ参加  職安雇用主会議への参加  労働管理講習会へ参加                      ほか</p> <p>2. 個人情報管理関係  個人名簿等のデータベースを集中化し管理  各利用者の個人データ・ケアプラン等のファイルを書棚で施錠管理  個人情報に関する考え方(プライバシーポリシー)の規程、HP上で公表    ほか</p> <p>3. 健康管理関係  全職員対象とした健康診断を実施  労働衛生法にもとづき産業医を委嘱                      ほか</p> <p>4. リスクマネジメント関係  町福祉健康センターで全職員、利用者を対象とした避難訓練を実施  ヒヤリハット委員会を定例開催(延べ12回)  第三者委員を設置(2名)  各係ごとに苦情解決担当者、苦情解決責任者を設置  介護サービス情報公表への適正な対応を図る  交通安全管理者講習会へ出席</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要                      やや必要                      不必要 健全な労務管理、法令順守の考え方のもと、適正な組織運営が求められている。
	成果	大きい                      やや大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや小さい                      小さい 形式だけの管理は危険性が高い。本格的に管理部門の見直しをする必要がある。
	達成度	達成                      やや達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや不十分                      不十分 関係法令が次々と改正されており、少しずつではあるがそれらへの対応がすすんでいる。
今後(次年度)の課題・改善方法		的確かつ適正な指導や提案ができる専門機関(公認会計士、税理士、社会労務士等)との契約については、引き続き検討する必要がある。
総合評価		A                      B <input checked="" type="checkbox"/> C                      D
担当者		芝

事業名		法人運営(職員の資質向上)
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源
事業概要	目的	社会福祉協議会の基本理念と職員の行動指針等にもとづき、社協職員として自覚と専門性を習得させる。
	実施内容	三重県・県社協・紀南地域等で開催する各種研修会等に積極的に参加、また部内会議等により豊かな人間性、倫理観、福祉に携わる社協職員としての質の向上を図る。 また、介護処遇改善交付金事業による助成金を活用し、介護職員に一時金手当を支給することでやる気の向上につなげ質の充実を図る。
	達成目標	社会福祉協議会の基本理念と職員の行動指針に添える人材の確保
事業実績		<p>1. 社協の職員行動指針の徹底を図る。 福祉専門職としての誇りと自覚を持ち、知識と技術に裏付けられた質の高いサービスを提供する。 常に住民や関係機関との協働を意識した行動をするとともに、地域においても自ら率先して福祉社会の発展に努める。 お客様の尊厳を保持するとともに、相談援助に際しては高い倫理意識を持って行動する。 常に地域福祉の充実という観点で福祉ニーズを意識し、柔軟かつ創造性に富んだサービスの開拓に努める。 職員相互が尊重し合い協調と連携のとれた業務を遂行するため、組織の一員として規律を遵守した行動をとる。</p> <p>2. 各種研修会により質の向上を図る。 全国社会福祉協議会会議へ参加 福祉有償運送職員研修会の開催 介護サービス事業所集団指導へ参加 地域包括支援センター主催ケアマネジャー会議及び研修会へ参加 介護予防サービス事業者向け研修会 組織力向上研修会へ参加 感染症対策研修会へ参加 三重県及び紀南介護保険広域連合主催各種研修会へ参加 介護技術向上を目的とした研修会への参加 社協コミュニティーソーシャルワーク研修会への参加 その他各種連絡会議、ネットワーク会議へ参加 ほか</p> <p>3. 職員のやる気の向上につなげ質の充実を図る。 介護職員処遇改善交付金一時金手当を臨時及び非常勤職員に支給する。</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 やや必要 不必要 質の向上に関しては、研修会等へ積極的に参加をさせ、意識、知識、技術を高められるよう研修計画が必要である。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい 介護保険の改正や新しいサービスに関する情報を適正に生かしている。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分
今後(次年度)の課題・改善方法		伝達研修や研修報告会などを充実させ、効率よく全体の職員のレベルアップを図る必要がある。また、組織力向上を目的として研修会へも積極的に参加させる。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
担当者		芝



事業名		法人運営(各種関係機関との連携、各種会議への出席)
財源元		委託      補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源
事業概要	目的	社協の役割として、幅広く関係機関との連携を保持しながら協働による事業推進は必要不可欠であり、かつ各種連絡会議・研修会等へ出席することで必要な指導を受けて社会福祉協議会の効率的な運営を目指す。
	実施内容	三重県・県社協・紀南地域等で開催する各種連絡会議等に積極的に参加し情報交換等により運営の充実を図る。
	達成目標	社協の運営又は経営に必要な情報・ノウハウを得て、それを具体的に現場に反映させる。幅広く関係機関が主催する各種会議等へ出席することで社協の役割を認知してもらうとともに連絡調整を図る。
事業実績		<p>1. 紀南地域における各種会議等へ出席  紀南地域市町社会福祉協議会連絡会議へ出席  熊野市・紀宝町・御浜町社会福祉協議会連絡会議へ出席</p> <p>2. 三重県社会福祉協議会等主催による会議等へ出席  三重県各市町社協事務局長会議へ出席  三重県地域福祉活動推進協議会へ出席  三重県社会福祉大会へ出席  三重県共同募金会評議員会へ出席  三重県地域福祉教育連絡会議へ出席  三重県社協・地域会議へ出席      ほか</p> <p>3. 関係機関との会議等への出席  御浜町民生委員児童委員協議会総会へ出席  御浜町交通安全対策協議会等へ出席  三重県あいふえすた及び実行委員会へ出席  紀南地域ケアネットワーク連絡会議への出席  地域包括ケア会議    ほか</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要      やや必要      不必要
	成果	<p>大きい    <input checked="" type="checkbox"/>やや大きい      やや小さい      小さい</p> <p>紀南地域及び県域での連絡会議は、社会福祉協議会の運営に必要な情報が得られ、また同じ立場での情報共有化が図れた。また関係機関との連絡調整が図れた。</p>
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成      やや不十分      不十分
今後(次年度)の課題・改善方法		
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B      C      D
担当者		芝

# 地域福祉事業

事業名		ボランティアセンター事業	
財源元		委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ( )	
事業概要	目的	町内のボランティア活動が活発に行えるよう、福祉ボランティアのみならず様々なボランティア活動の調整や支援を目的に運営する。	
	実施内容	ボランティアに関する情報の収集と提供 ボランティアに関する支援活動 各機関とのネットワークの推進 ボランティアの育成と指導 ボランティアに関する機材等の貸し出し	ボランティアの相談・登録・紹介 ボランティアに関する広報・啓発活動 ボランティアに関する調査・研究 福祉教育の推進 ボランティア保険の加入手続き
	利用料		
	達成目標	町内ボランティア活動の活発化と新規ボランティアの開拓。	
事業実績		<p>平成21年度延べボランティア活動者数 2,937人  (内訳) 配食サービス980人 病院 462人 サロン・デイサービス336人  子育て支援390人 環境美化296人 その他473人  新規ボランティア登録者数: 13人  相談・援助・支援延べ件数116件  (内訳) ボランティア相談84件 施設からの相談3件 学校からの相談5件  ボランティア保険の加入相談2件 行政からの相談9件 その他13件  会議、研修会等の出席  県民センターNPO担当者、行政会議  紀南地域ボランティアセンター連絡会議  市町ボランティアセンター連絡会議  紀南地域ボランティアコーディネーター養成研修会  紀南地区ボランティアコーディネーター定例会  地域包括支援センター地域ケア会議  高齢者見守りサポーター養成講座  認知症サポーター養成講座  紀南病院との意見交換会  町次世代育成支援行動計画策定委員会  県、地域子ども会議</p>	
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要      やや必要      不必要	
		町内のボランティア活動を推進していく機関としての必要性は高い。	
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい      やや小さい      小さい	
		ボランティアの育成など一定の成果が上がっている。	
達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成      やや不十分      不十分		
	新規ボランティアは少なかったものの、人数が増加したボランティアグループがいくつかあり、グループ活動の充実につながった。延べボランティア活動者数も増加しており活動の活発化がうかがえる。		
その他の評価(所感)		様々なボランティア活動が増えると共にニーズも多様化してきた。子育て支援関係の若いボランティア層の活動と、地域密着のボランティアグループの活動とのコラボレーションがあり、新しい活動の形がみえた。	
今後(次年度)の課題・改善方法		新規ボランティアの発掘とニーズに対応するため、地域福祉推進の事業と連携し幅広く支援をしていく。 ボランティア・市民活動センターを視野に入れた幅広い活動の支援をおこなっていく。	
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B      C      D	
担当者		梶原	

事業名		小学生ボランティア講座
財源元		委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ( )
事業概要	目的	町内の小学生を対象に春休みを利用し、福祉について考えてもらいボランティア活動に参加するきっかけ作りを目的とする。
	実施内容	福祉についてのイメージや自分が思うしあわせなことについて考えてもらい、クロスロードというゲームを通じて自分と異なる意見や考え方があるということを知ってもらい自分に何ができるかを考えるきっかけ作りをおこなう。最後に、環境ボランティア体験として新聞紙のエコバック作りをおこなう。
	利用料	参加費 100円
	達成目標	福祉について考えるきっかけになり、人はいろいろな人との関わりの中で生活していること、自分たちにできるボランティアについて考えてもらう。
事業実績		<p>日時：平成22年3月22日(月) 13時～16時</p> <p>場所：御浜町福祉健康センター</p> <p>内容：福祉について考えよう 新聞紙でエコバックを作ってみよう！</p> <p>対象：町内の小学生</p> <p>参加人数：15名</p>
事業評価	必要性	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい
		子どもたちが福祉について考える機会と、家庭や学校への啓発として必要。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい
		福祉ってなんだろう！自分たちに出来る事って何だろう！そしてみんなができる事って何だろう！ということを学んでもらえたことは大きかった。
達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分	
	自分たちにもできることとは何か、人は一人で生活しているのではないということなどが少しわかってくれた様子が伝わってきた。	
その他の評価(所感)	前年前の講座がきっかけで結成された子どもだけのボランティアグループ「プチトマト」が新聞紙のエコバック作りを手伝ってくれた。 予想していた参加者よりは少なかったが、同年代のボランティアグループの活躍を見たこともあり、子どもできるボランティア活動についてのわかりやすかったと考える。	
今後(次年度)の課題・改善方法		次年度はできるだけ多くの方に参加してもらえよう日時、内容についても、調整していきたい。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
担当者		梶原

事業名		夏休み親子手話教室
財源元		委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ( )
事業概要	目的	夏休みを利用し親子と一緒に楽しみながら手話を覚えることで、聴覚障がい者の生活を理解し、聴覚障がい者の方々と交流してもらうことを目的とする。
	実施内容	子供とその保護者を対象に、手話サークルオレンジを講師に手話とはどういうものを学び、指文字や日常よく使われる単語で人の感情などを中心に勉強する。自己紹介なども兼ね人前に立って相手に伝えることも学ぶ。
	利用料	無料
	達成目標	聴覚障がい者への接し方や手話を知っていただく。町内の他校同士の交流を図るきっかけとする。
事業実績		<p>日 時 : 平成21年7月28日、29日 13時30分～15時</p> <p>場 所 : 御浜町福祉健康センター</p> <p>講 師 : 手話サークルオレンジ</p> <p>参加者 : 延べ38名</p>
事業評価	必要性	必要 <input type="checkbox"/> やや必要 <input checked="" type="checkbox"/> 不必要
		手話の勉強も大きいですが、聴覚障がい者との交流の機会としての必要性は高い。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい <input type="checkbox"/> やや小さい <input type="checkbox"/> 小さい
		楽しみながら手話への関心をもってもらえたようである。
	達成度	達成 <input type="checkbox"/> やや達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分
サークルメンバーの子どもたちの協力もあり、参加した子ども同志が友達となりやすかった。その後、サークル加入へつながっていている。		
その他の評価(所感)	H21年度の教室も昨年同様兄妹での参加が目立った。若いお母さんも就学前の子どもを連れて参加してくれたことは親子手話教室の意味があったと思う。	
今後(次年度)の課題・改善方法		手話サークルが、自主的な活動として進めていってもらえるよう支援していきたい。
総合評価		A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
担当者		梶原

事業名		入門手話講座
財源元		委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ( )
事業概要	目的	日常生活には様々な伝達手段があり、その一つとして手話というものがあるということ を理解し、学習していただく。そして、さらに手話を通じて聴覚障がい者と関わることで、 障がい者へ理解を深めていただき、ボランティアや福祉への関心を高めていくことを目 的とする。
	実施内容	手話サークルオレンジに委託して実施。 指文字や日常よく使われる単語、人の感情などを中心に勉強する。自己紹介なども 兼ねて人前に立ち、相手に伝えることも学ぶ。
	利用料	無料
	達成目標	聴覚障がい者への接し方や手話を知っていただく。ボランティア活動やサークル活動 へとつなげていく。
事業実績		日 時 : 平成22年2月18日・25日・3月2日(全3回) 19時~20時30分  場 所 : 町福祉健康センター 研修室  講 師 : 手話サークルオレンジ 会長 山本 恭子 氏、山本 容子 氏  参加者 : 延べ25名  修了者 : 10名
事業評価	必要性	必要 <input type="checkbox"/> やや必要 <input checked="" type="checkbox"/> 不必要 <input type="checkbox"/>
		手話を覚えることも大事だが、聴覚障がい者との交流の機会としての必要性は高い。
	成 果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい <input type="checkbox"/> やや小さい <input type="checkbox"/> 小さい <input type="checkbox"/>
		手話サークルオレンジとの交流を通じ、手話に興味を持ってくれた方が多かった。(保 育園児の参加もあった。)
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 <input type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/>
参加者は少なかったもののサークルとの交流には繋がった。		
その他の 評価(所 感)	H21年度は、本格的に手話サークルに委託して実施した。昨年同様、参加者が楽し みながら手話が覚えられるよう、いろいろな工夫をしてくれていた。 最終日には講座終了後「手話サークルオレンジ」との交流会が開催されたことは参加 者からの評判も良かった。	
今後(次年度)の 課題・改善方法		手話サークルオレンジが、より自主的な活動として進めていってもらえるよう支援して いきたい。
総合評価		A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
担 当 者		梶原

事業名		しゅみ活動講座事業
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業の概要	目的	新しい技術や趣味を身につけていただくことで「担い手育成」とし、趣味の「たまり場」や、ボランティア・市民活動として「つながり」作りになることを目的とする。
	実施内容	新しい技術や趣味を身につけていただくために4種類の講座を開催する。
	利用料	男性そば打ち講座500円、絵手紙講座500円、お菓子作り講座200円
	達成目標	多くの方に参加していただき、趣味や技術を身につけていただき、ふれあいサロンや活動へつなげていく。
事業実績		<p>【男性そば打ち講座】 尾鷲市の蕎麦屋「長べや」上田氏から蕎麦の打ち方を教わる講座 日 時：平成21年4月22日（水曜日）9：30～ 場 所：御浜町福祉健康センター 参加人数：11名</p> <p>【絵手紙講座】 新宮市で絵手紙を教えている先生から絵手紙の書き方のコツを教わる講座 日 時：平成21年12月11日（金曜日）13：30～ 場 所：御浜町福祉健康センター 参加人数：9名</p> <p>【みかん菓子作り講座】 ふるさと茶屋「おかげさんで」のスタッフからみかん菓子作りを教わる講座 日 時：平成22年2月10日（水曜日）13：30～ 場 所：御浜町福祉健康センター 参加人数：17名</p> <p>【おもしろ手品講座】 鳥羽市の手品ボランティアから手品と話術を教わる講座 日 時：平成22年3月28日（日曜日）13：00～ 場 所：御浜町福祉健康センター 参加人数：21名</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> やや必要 不必要 市民活動やたまり場の活性を図るために、福祉という分野だけでなく、幅広い分野の趣味や技術を身につけていただくことで担い手育成としての必要性は高い。
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 大きい やや大きい やや小さい 小さい 男性のみを対象とした講座も行ったことで、今までとは違う層の方とのつながりができた。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分 講座修了後は、自主的な勉強会へ発展している内容もある。また、ボランティア活動にもつながっている。
	その他の評価（所感）	男性そば打ちと絵手紙については、前年度の課題であった継続して学べる場所作りができ、技術の向上と継続した活動につながっている。参加者の希望をききつつコーディネートしていくことで、より担い手としてやりがいのある内容になると考える。
今後（次年度）の課題・改善方法		更に幅広い年代層や男性に参加していただける講座を行う。
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B C D
担当者		芝、山崎

事業名		子育てサポーター養成講座
財源元		委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ( )
事業概要	目的	子どもと大人との適切なかわりの中で子どもたち自身が本来持っている「育つ力」を生かして、自分らしくいきいきと生きることができる「子育て支援」の地域社会づくりを目的とする。
	実施内容	三重県こども未来室との協働で行った。最初2人1組になり、相手との共通点を20個見つけてもらい、和やかな雰囲気を作ったあと、子どもたちの活動を実際に支援していく場合のコミュニケーションの基礎について、ワークショップ形式で参加型学習を行い「子育て支援」と「子育て支援」について考えていただく。
	利用料	無料
	達成目標	地域の子どもたちの夢や思いを大切に地域づくりを通して支援していく。
事業実績		<p>日時：平成21年11月21日(土) 13時～17時</p> <p>場所：御浜町福祉健康センター</p> <p>対象：子育て中の方、子育て支援のボランティアなど</p> <p>参加者：13名</p> <p>講師：葛巻直樹氏</p>
事業評価	必要性	必要 <input type="checkbox"/> やや必要 <input checked="" type="checkbox"/> 不必要 <input type="checkbox"/> 地域の子どもたちの育成を支えるために、支援者を養成する必要性は高い。
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> やや大きい <input type="checkbox"/> やや小さい <input type="checkbox"/> 小さい 地域で子どもたちに積極的に声かけをするなど見守っていただける「みえの子育てサポーター」として受講者全員に登録していただいた。
	達成度	達成 <input type="checkbox"/> やや達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/> ボランティア同士の勉強会だけではわからなかった部分を学ぶことが出来たようで、子どもたちとの関わり方など学び地域で支えていく大切さなどわかるきっかけになった。
	その他の評価(所感)	「子育て」関係のボランティア講座はこれまでも開催したが「子育て」に関するのは初めてで参加者からも勉強になったという声を聞かせてもらった。
今後(次年度)の課題・改善方法		平成21年度に繋がりができた三重県こども未来室や他の機関とも今後一緒に事業ができるよう検討していきたい。
総合評価		A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
担当者		梶原

事業名		手話学習会の開催事業(手話サークル支援)
財源元		<input checked="" type="checkbox"/> 委託 補助 自主財源( )
事業概要	目的	年間を通して、手話学習会を開催し、継続性のもった技術向上を図ることを目的とする。
	実施内容	手話サークルに依頼し、活動日の中で学習の時間を設置していただくことで定期的に開催する。
	利用料	無料
	達成目標	年間を通して学習会を開催する。
事業実績		<p>手話サークル(会員30名)</p> <p>日時： 毎週火曜日 19時30分～21時 毎月第2土曜日 13時30分～15時</p> <p>場所： 御浜町福祉健康センター ピネ活性化センター2階</p>
事業評価	必要性	必要 <input checked="" type="checkbox"/> やや必要 不必要 手話の技術を維持・向上していくために、年間を通じた学習の必要性はある。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい 入門手話講座の修了者が講座最終日にサークルに参加し、会員は増加している。
	達成度	達成 やや達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや不十分 不十分 手話サークルは予定通り行われたが、点字サークルは休止となった。
	その他の評価(所感)	日常生活で手話を使う機会が少ない方にとって、教室等で覚えた技術を年間を通して行うことで維持することができる。サークルに参加している障がい者との交流にもなっている。
今後(次年度)の課題・改善方法		手話サークルについては、引き続き支援を行い、今年度活動がなかった点字サークルについては、サークルとして活動が再開されるよう働きかけを行う。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
担当者		梶原

事業名		ボランティア情報の提供・啓発事業
財源元		<input checked="" type="checkbox"/> 委託 補助 自主財源( )
事業概要	目的	ボランティア情報提供と啓発を目的におこなう。
	実施内容	毎月の「社協だより」のボランティアコーナーでボランティア募集の掲載 情報誌「てんとうむし」の発行でボランティア活動報告等を掲載 社協・ボランティアセンターホームページでボランティアの活動紹介、ボ ランティア募集、福祉講座・研修の案内などを掲載
	利用料	
	達成目標	一人でも多くの方に読んでもらうために他情報誌を参考にしたり記事の内容に工夫を凝らす。
事業実績		<p>ボランティア情報誌「てんとうむし」の発行 ボランティアセンター登録者に発行(年1回)</p> <p>内 容 ボランティア募集 講座、研修会案内及び報告 ボランティア活動報告 ボランティア体験談 ほか</p> <p>社協だより(ボランティアコーナー)の発行 広報みはまに折り込んで毎月1ページで発行</p> <p>内 容 ボランティア募集 講座、研修会案内及び報告 ボランティア活動報告 ボランティア体験談 ほか</p> <p>ホームページ 内 容 各団体への情報 ボランティアへの依頼と相談 ボランティア募集と講座のご案内 ボランティアの活動紹介 掲示板 ほか</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 やや必要 不必要 新しいボランティアにとって情報源になっていることもあるようで必要性を感じる。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい 社協だよりの中に「ボランティアコーナー」としてボランティア募集の掲載が住民に浸透されボランティアにつながっていくケースが増えた。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分 「情報誌を読みました」といういろいろな問い合わせがあったことなどから、多くの方に読んでいただいたという実感がわいた。
	その他の評価(所感)	社協だよりのボランティアコーナーはボランティア募集を中心に掲載しているため、新しいボランティアの登録、活動へ繋がった。 「てんとうむし」はボランティアの活動報告や助成金の案内などを紹介するなど記事を工夫したが回数が少なかった。
今後(次年度)の課題・改善方法		「てんとうむし」については、発行回数を増やすことでボランティアセンター情報誌として活動報告や更に多くの情報が提供できるようにしていきたい。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
担当者		梶原

事業名		ボランティア協力校事業	
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）	
事業概要	目的	御浜町内の小・中学校および高等学校を対象として、高齢者及び障害者等との交流や各種福祉活動等により、ノーマライゼーションやボランティアに対する理解を深めるとともに、思いやりとやさしさの心を育むことで、児童、生徒を通じて家庭及び地域社会の啓発を図ることを目的とする。	
	実施内容	学校で福祉理解やボランティア育成を目的におこなうイベントや事業をおこなっていただくために、町内の小・中学校・高校に対して各3万円の助成をおこなう。(全8校)	
	利用料		
	達成目標	学校によるボランティアや福祉活動への取り組みの促進。学校とのネットワーク作り。	
事業実績		<p>紀南高等学校  くろしお学園文化祭、運動会へ参加 血液センター、ファミリーハウス見学会  青少年赤十字トレーニングセンターへ参加 紀宝みなと祭りへ参加 くろしお学園サマースクール  エコキャップ回収 紀宝健康まつりへ参加 アルミ缶回収で車いすの寄付 青少年赤十字のつどい  赤十字救急法講習会へ参加 第1、2、3回三重県青少年赤十字高等学校連絡協議会参加  御浜町ミュージックフェスティバル 第1、2回ボランティア講座参加(くろしお学園) ハイチ地震救  援金活動  勇気の会紀州支部総会へ参加 パラオ青少年赤十字団来県に伴う国際交流ボランティア  尾呂志学園中学校  運動会への招待 文化祭への招待 菖蒲園の取り組み 生徒会あいさつ運動 学校便りの  発行  阿田和中学校  みかん園の除草・施肥・みかん取り 園芸委員会活動 クリーン作戦 文化祭への招待  体育祭への招待 古切手集め  御浜中学校  校区内清掃活動 救急救命法講習 職場体験学習 保育学習 福祉体験学習(3回)  尾呂志学園小学校  運動会への招待 文化祭への招待 ひかり園生との交流の取り組み もちつき大会での交流  学校便りの発行 リハビリ診療所利用者との交流  阿田和小学校  通学路清掃 運動会への招待 保育園訪問 園芸・栽培活動  御浜小学校  高齢者・老人の方々の運動会へのご招待 高齢者の方々との交流(2回) 松涛園への方々と  の交流  神志山小学校  環境美化(花の栽培) 運動会への招待</p>	
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 やや必要 不必要	
		町内全校の申請があり、学校に対する福祉啓発として必要性は高い	
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい	
		毎年、事業の内容も広がっている。	
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分	
学校や先生たちとのネットワーク作りの大きな役割を担っている。			
その他の評価(所感)		学校の予算だけで行事をおこなうのは大変だということで、指定校全校に助成を受けていただいている。	
今後(次年度)の課題・改善方法		福祉教育推進事業と連携して進めていく。学校とのネットワーク作りに重点を置く。校長先生が変わられた学校とは特に訪問する回数を増やし関係を作っていく。	
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	
担当者		梶原	

事業名		福祉教育推進事業
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業概要	目的	町内の各学校を対象として、本会が指定するボランティア協力校事業を通じて芽生えた福祉およびボランティアに対する理解をさらに深めるために、定期的な交流事業や各種体験事業等による実践活動を通じ、地域内の支え合いの意識を高めることにより、豊かな人間形成を図ることを目的としている。
	実施内容	福祉講演会や地域の高齢者への定期的な訪問活動など社協が定めている事業を実施する場合、1事業につき1万円の助成をおこなう。（最高5項目5万円）
	利用料	
	達成目標	多くの学校に勤めていく。
事業実績		平成21年度の利用学校数は1校であった。  神志山小学校 日 時：11月5日（3限目と4限目） 内 容：手話で学ぶ会 参加人数：52名 使途内容：講師料
事業評価	必要性	必要 <input checked="" type="checkbox"/> やや必要 不必要 実施学校数は少ないが今後必要になることが考えられる。
	成果	大きい やや大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや小さい 小さい 手話学習についての促進になった。
	達成度	達成 やや達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや不十分 不十分 実施する学校が1校のみというのが数年続いているため達成度は低い。
	その他の評価（所感）	ボランティア協力校は町内全校が受けていただいているが、次の段階となるこの事業の実施には至っていない。 前年同様1校だけの実施だった。多くの学校に活用していただけるようボランティア協力校事業に関連した進め方などを助言しているが、利用につながらないため、原因を校長に聞かせていただくと、事務が増えることが理由の一つとなっている。 学校側の事情も踏まえながら、再度ボランティア協力校事業に関連した進め方を助言していく。
今後（次年度）の課題・改善方法		
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
担当者		梶原

事業名		学校からの依頼による福祉体験
財源元		委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ( )
事業概要	目的	自分たちの地域や建物が、障がい者や子どもたち、お年寄りにとって、どうすれば住みやすくやさしい町になるのかを気づいていただく。また、体験して終わりではなく、思いあう心を養っていただくことを目的とする。
	実施内容	学校からの福祉体験の依頼により、車イスの使い方、高齢者の擬似体験などをおこなう。
	利用料	無料
	達成目標	高齢者疑似体験を通じ、バリアフリーについて正しく理解していただく。
事業実績		<p>木本高校 JRC 日 時 : 平成21年4月7日 場 所 : 御浜町福祉健康センター 内 容 : 車イス体験、高齢者疑似体験、グループワーク 参加人数 : 8名 先生1名</p> <p>尾呂志学園中学校 日 時 : 平成22年12月28日 場 所 : 御浜町福祉健康センター 内 容 : 車イス体験、グループワーク 参加人数 : 10名 先生各2名</p> <p>御浜中学校 日 時 : 平成22年2月9日 場 所 : 御浜町福祉健康センター 内 容 : 福祉講話 参加人数 : 46名 先生2名</p> <p>御浜中学校 日 時 : 平成22年2月16日 場 所 : 御浜町勤労者体育センター及びその周辺 内 容 : 車イス体験、高齢者疑似体験、グループワーク 参加人数 : 46名 先生 3名</p> <p>御浜中学校 日 時 : 平成22年2月25日 場 所 : 御浜町福祉健康センター 内 容 : 認知症についての講話、施設見学 参加人数 : 46名 先生4名</p> <p>尾呂志学園中学校 日 時 : 平成22年3月9日 場 所 : 尾呂志学園 内 容 : 高齢者疑似体験、グループワーク 参加人数 : 10名 先生3名</p>
事業評価	必要性	必要 <input type="checkbox"/> やや必要 <input checked="" type="checkbox"/> 不必要 <input type="checkbox"/> 学生にバリアフリーについて正しく理解していただくため必要である。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい <input type="checkbox"/> やや小さい <input type="checkbox"/> 小さい <input type="checkbox"/> 車イスの扱い方や高齢者介助の基本(気持ちの部分)は理解できたようである。
	達成度	達成 <input type="checkbox"/> やや達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/> 体験を通して、お互いを思いあう心が大切という部分を気づくきっかけになった。
	その他の評価(所感)	体験終了後、グループワークの中で、今までであった偏見などへの気づき等が生まれ、次はどのように行動していくことが重要なのか考えるきっかけ作りができ効果が大きかったように思う。 H21年度は、尾呂志学園中学校から依頼があったことはよかった。
今後(次年度)の課題・改善方法		H21年度は、御浜中学校に加え尾呂志学園中学校の依頼があったことから、次年度は阿田和中学校にもアプローチをかける。指導者としても常に指導の仕方について新しい考え等を学んでいく必要がある。
総合評価		A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
担当者		梶原

事業名		ボランティアのつどい開催支援
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 (ボランティア連絡協議会)
事業概要	目的	ボランティア連絡協議会が主催として行う「ボランティアのつどい」に対し、ボランティア活動の課題把握や育成を目的に支援をおこなう。
	実施内容	ボランティア連絡協議会の主催で、交流会や勉強会・研修会として一年に一度開催する「ボランティアのつどい」の支援や連絡調整をおこなう。
	利用料	参加費 1000円(ボランティア連絡協議会)
	達成目標	日頃のボランティア活動の悩みなどを共有し解決していく。
事業実績		<p>日 時 : 平成21年3月6日 午前7時30分～午後6時</p> <p>場 所 : 伊勢市</p> <p>内 容 : 伊勢神宮参拝とおかげ横丁散策</p> <p>参加人数 : 42名</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要      やや必要      不必要 一年に一度のボランティア連絡協議会の交流の場として必要。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい    やや小さい    小さい 参加したボランティア同志の交流もでき、内容の近い活動をしている方たちが悩みを話し合うことで解決にもなっている。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成    やや不十分    不十分 活発な新しいボランティアグループの参加があり賑やかなつどいとなった。伊勢までの長い車中日ごろの活動発表で交流ができたこと、日ごろの悩みなどを共有できたことはよかった。
	その他の評価(所感)	会議形式では中々意見なども言いにくいこともあるが、車中ではリラックスしているような話ができたとする意見を聞くことができた。
今後(次年度)の課題・改善方法		内容についてボランティア連絡協議会の会議時に事務局に任せられがちになる。会にとっても最も大事な場のため、内容を更に検討していただけるように促していく。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B    C    D
担当者		梶原

事業名		ふれあい配食サービス事業
財源元		委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ( )
事業概要	目的	ふれあい型の配食サービスとして、高齢者宅へボランティアの手作りお弁当を配達することで、地域とボランティアとがふれあい、安否を気遣いながら地域で支えあっていくきっかけづくりを目的とする。
	実施内容	地域のボランティアにより毎月1回、ボランティアがメニューを決め地区の公民館で調理し配達する。(夏場は休み)対象者は、調理数も考慮した上で地域のボランティアグループが決めている。
	利用料	200円
	達成目標	町内全地区に継続実施し、それを地域でのふれあいへつなげる。
事業実績		<p>上市木地区 実施回数9回 延べ対象者数261名 延べボランティア数 63名</p> <p>下市木地区 実施回数9回 延べ対象者数603名 延べボランティア数168名</p> <p>志原地区 実施回数9回 延べ対象者数594名 延べボランティア数 72名</p> <p>神木地区 実施回数10回 延べ対象者数600名 延べボランティア数160名</p> <p>阿田和地区 実施回数9回 延べ対象者数918名 延べボランティア数292名</p> <p>尾呂志地区 実施回数9回 延べ対象者数306名 延べボランティア数225名</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 やや必要 不必要 高齢者と地域の方との交流の一環として必要。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい 月に一度の配食だが心待ちにしてくれており、配達側も満足感をもって交流できる。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分 町内全地域で継続して行われている。ふれあいについても楽しみにして待っていてくれるなどよい関係が続いている。
	その他の評価(所感)	ボランティアが配食の対象になるなど、ボランティアの高齢化が深刻な問題となっているが、今年度は会計など交代したグループもあり徐々にではあるが世代交代の準備ができつつある。
今後(次年度)の課題・改善方法		平成21年度も開催することができなかったは配食サービスだけのリーダー会議を開催し、社協としての関わり方やリーダーの役割など検討していきたい。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
担当者		梶原

事業名		ふれあいサロン												
財源元		委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金）												
事業概要	目的	地区の高齢者を中心に、子どもから大人までが身近な場所に気楽に参加でき、生きがいやふれあいになる場を目的に開催する。												
	実施内容	次の町内12箇所で毎月1回づつ半日の日程で開催する。 神木 上市木 下市木 引作 柿原 萩内団地 尾呂志 志原 山地 上地 阿田和 片川 内容としては、ゲームや作り物、調理など。												
	利用料	200円												
	達成目標	高齢者だけではなく、地域の方にできるだけ参加していただく。												
事業実績		<p>延べ年間参加人数 904名</p> <p>月別参加人数（参加高齢者数）</p> <table border="0"> <tr> <td>4月：8名</td> <td>5月：81名</td> <td>6月：79名</td> <td>7月：73名</td> </tr> <tr> <td>8月：66名</td> <td>9月：51名</td> <td>10月：69名</td> <td>11月：74名</td> </tr> <tr> <td>12月：73名</td> <td>1月：82名</td> <td>2月：88名</td> <td>3月：86名</td> </tr> </table>	4月：8名	5月：81名	6月：79名	7月：73名	8月：66名	9月：51名	10月：69名	11月：74名	12月：73名	1月：82名	2月：88名	3月：86名
4月：8名	5月：81名	6月：79名	7月：73名											
8月：66名	9月：51名	10月：69名	11月：74名											
12月：73名	1月：82名	2月：88名	3月：86名											
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> やや必要 <input type="checkbox"/> 不必要 身近な場所に気軽に集まることのできるたまり場の1つとして必要性は高い。												
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい <input type="checkbox"/> やや小さい <input type="checkbox"/> 小さい 生きがい作りやふれあいの場所として一定の成果を上げている。参加者数は、前年度と比較するとほぼ同数となっている。												
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 <input type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分 地区や時間帯によっては子供が参加している地域や、ボランティアが常に参加していただいている地域もあり、目的に近づいているが、まだまだ高齢者のみの地域も多い。												
	その他の評価（所感）	一部の地域においては、ボランティアや地域の方が企画や高齢者の支援として参加してくれており、ふれあいの輪が広がると共に幅広いプログラムをすることができた。また、子供ボランティアグループ「プチマト」が参加するなど、幅広い世代の交流を促すことができた。紀南病院（三重県地域医療研修センター）からの参加もあり参加者には好評だった。												
今後（次年度）の課題・改善方法		参加者も高齢になってきて減少してきている地域もある為、高齢者だけではなく多くの方が参加しやすいサロンになるよう呼びかけをしていく。												
総合評価		A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>												
担当者		坂・上平・芝												

事業名		ちびっこランド
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業概要	目的	同じ子育てをするもの同士がふれあい、育児の不安や悩み事を相談するなど地域の中で気軽に集える場所作りをすることを目的とする。
	実施内容	ちびっこランドしはら 開催日：毎月第2火曜日 10時～11時30分（8月休み） 場 所：東平見集会所 ちびっこランドいちぎ 開催日：毎月第4火曜日 10時～11時30分（8月休み） 場 所：下市木公民館
	利用料	100円（保険代）＋必要に応じて徴収
	達成目標	お母さんたちの手作りサロンをめざして開催している志原地区と、ボランティア中心で開催している市木地区のそれぞれの特色をだす。
事業実績		ちびっこランドしはら（参加者中心でプログラムを実施） 絵本の読み聞かせや踊りや手あそび、折り紙、お好み焼き、お団子作りなど、季節の行事を自分たちで思考を凝らしながら楽しんでいる。クリスマス会では、ボランティアがサンタクロースの姿で登場し、プレゼントを一人一人に手渡してくれた。 参加人数：延べ221名 ボランティア：延べ9名  ちびっこランドいちぎ（ボランティア中心でプログラムを実施） 近くの公園へ行っての外遊びや子どもステーションくまのとの共催によるベビーマッサージ（講師：もとだてかつこ先生）、しゅみ活動講座「男性そば打ち」の実演など工夫を凝らした。毎回ボランティアによる手あそびと紙芝居を取り入れている。 参加人数：延べ125名 ボランティア：延べ22名
事業評価	必要性	必要 <input checked="" type="checkbox"/> やや必要 不必要 子育て支援室などもあるが、お母さんたちが自分や子どもに合った場所を選ぶための選択肢の一つとして必要性は高い。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい どちらも新しい参加者があり交流の場となっている。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分 志原（自主）と市木（ボランティア中心）で行っているサロンには、それぞれの個性が出てきており、その個性を活かした活動となってきた。
	その他の評価（所感）	どちらも事前に内容を決め、みんなが参加できるよう考えてくれ、それぞれのちびっこランドの特色がいい方向で定着してきた。ボランティアとの関係も教わるが多くうまく関わりが持っている。
今後（次年度）の課題・改善方法		保育所・幼稚園への入園により、参加してくれるお母さんたちの入れ替わりがあるため、自分たちで引継ぎをしてもらえるよう取り組んでいく。 次年度も今年度同様参加しながら見守っていく。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
担当者		梶原、山崎

事業名		みはまっこ体験クラブ
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ( )
事業概要	目的	町教育委員会やボランティアとの協働で、子どもたちがさまざまな体験活動ができる場と気軽に安心して集える場(たまり場)作りとして開催する。また、新しい人間関係や仲間づくり、地域の様々な世代の方々とのふれあい通じて、子どもたち自身が地域を理解し、活動する自覚や能力を育成する。
	実施内容	「みはまっこ体験クラブ」を担っていただけるボランティアグループを立ち上げ、そのグループを中心に講座の企画と運営を行う。
	利用料	講座の内容により自己負担
	達成目標	子どもたちが安心して集える場(たまり場)を作る。運営ボランティアグループ「みはまっこレンジャー」の支援を行う。
事業実績		<p>みはまっこ体験クラブ</p> <p>犬とふれあおう(4月18日(土)) 場 所：町中央公民館 駐車場 参加者：57人</p> <p>サツマイモ畑を作ろう「苗植えと畑のプレート作り」(6月13日(土)) 場 所：志原 南州計さん宅の畑 参加者：23人</p> <p>サツマイモ畑を作ろう「草抜きなどの世話とカキ氷」(7月18日(土)) 場 所：志原 南州計さん宅の畑 参加者：23人</p> <p>マイはしde流しそうめん(7月25日(土)) 場 所：町福祉健康センター 参加者：28人</p> <p>家族わいわいクッキング(7月29日(水)) 場 所：町福祉健康センター 参加者：24人</p> <p>わくわく科学教室(8月8日(土)) 場 所：町福祉健康センター 参加者：40人</p> <p>サツマイモ畑を作ろう「収穫と焼きいも作り」(10月31日(土)) 場 所：志原 南州計さん宅の畑 参加者：23名</p> <p>しめなわを作ろう(12月6日(日)) 場 所：町福祉健康センター 参加者：27人</p> <p>もちつきをしよう(2月13日(土)) 場 所：町福祉健康センター 参加者：45人</p> <p>犬とふれあおうパート2(3月28日(日)) 場 所：町中央公民館 駐車場 参加者：50人</p> <p>ボランティアグループ(みはまっこレンジャー会議) 時 間：午後7時より 場 所：町福祉健康センター 第1回 5月1日(金) 第2回 6月19日(金) 第3回 8月7日(金) 第4回 11月5日(木) 第5回 1月18日(月) 第6回 3月12日(金)</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> やや必要 <input type="checkbox"/> 不必要 毎回、募集人数を越えることから、安心して遊べる場・様々な体験ができる場が求められており、必要性は高い。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい <input type="checkbox"/> やや小さい <input type="checkbox"/> 小さい 今まで関わりのなかった方が教室の講師等をしていただくことができ、新たなボランティアとしてつながった。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 <input type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分 運営ボランティア(みはまっこレンジャー)から講座について積極的な意見が上がり、講座の内容につながっている。参加人数からもニーズに即したものとなっている。
	その他の評価(所感)	教室の内容によっては、募集定員が少なくせざるをえない場合もあり、多く申込を断ったことがあった。
今後(次年度)の課題・改善方法		教育委員会で設立から担当をしていた職員の人事異動があったが、役割分担が変わってしまわないようさらに連携を図る。運営ボランティア(みはまっこレンジャー)の自主性を高める。 毎行われるアンケートも今後につなげていきたい。
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
担当者		梶原、山崎

事業名		神木地区におけるたまり場とコミュニティー促進事業						
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源						
事業概要	目的	地域の福祉拠点(神木ほのぼの館)を開放し、地域福祉の観点から児童から高齢者が気軽に集まれるスペース(たまり場)として確保し、ボランティアの協力を得ながら地域内のコミュニティーの形成を図ることを目的としている。						
	実施内容	「よりみち広場」として、火曜日と木曜日に神木ほのぼの館を一般開放をし、誰でも気軽に遊びに来ることができ参加できる場として提供する。 H20年度～H22年度の3年間、県社協から「地域福祉教育推進事業」の助成を受け、神木ほのぼの館で講座を開催し、神木ほのぼの館が地域により根ざしたものとなるよう場作りとコミュニティーの形成に取り組む。						
	利用料	無料						
	達成目標	講座等を開催しよりみち広場を多くの方に利用していただく。地域住民とのネットワークの構築を図る。						
事業実績		<p>よりみち広場 8月までは担当職員を配置し開催(毎週火曜日の午後2時00分～午後5時)していたが、9月からはボランティアグループ「和」に開設を依頼した。(毎週火・木曜日の午後1時から5時) 延べ利用者数：1425名</p> <p>各種講座</p> <table border="0"> <tr> <td>エコバック作り 日 時：平成21年6月18日 参加人数：10名</td> <td>布ぞうり教室 日 時：平成21年11月26日 参加人数：7名</td> </tr> <tr> <td>ゆかた着付け教室 日 時：平成21年7月16日 参加人数：11名</td> <td>しめ縄作り 日 時：平成21年12月15日 参加人数：10名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">アクセサリー講座 日 時：平成21年9月15日 参加人数：11名</td> </tr> </table>	エコバック作り 日 時：平成21年6月18日 参加人数：10名	布ぞうり教室 日 時：平成21年11月26日 参加人数：7名	ゆかた着付け教室 日 時：平成21年7月16日 参加人数：11名	しめ縄作り 日 時：平成21年12月15日 参加人数：10名	アクセサリー講座 日 時：平成21年9月15日 参加人数：11名	
エコバック作り 日 時：平成21年6月18日 参加人数：10名	布ぞうり教室 日 時：平成21年11月26日 参加人数：7名							
ゆかた着付け教室 日 時：平成21年7月16日 参加人数：11名	しめ縄作り 日 時：平成21年12月15日 参加人数：10名							
アクセサリー講座 日 時：平成21年9月15日 参加人数：11名								
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 やや必要 不必要 神木ほのぼの館を「たまり場」として多くの方に活用していただくことで、地域に根ざした建物のとなる。また、小地域のネットワーク作りの一環になることから必要性は高い。						
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい 講座を開催したことで、ボランティアグループ「和」に中心となる活動ができ、よりみち広場の開設を受け持っていただけになった。						
	達成度	達成 やや達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや不十分 □ 不十分 講座開催移行は、よりみち広場を多くの方に利用していただけるようになった。しかし、ふれあいは広がったものの、ネットワーク作りにはまだ達していないのが現状である。						
	その他の評価(所感)	H21年度はよりみち広場の利用者数も急増し、幅広い交流の場として活用された。参加者数の割合から見ると、神木地区の方の参加が少ない、より近隣の方に利用していただけるような取り組みが必要と感じている。						
今後(次年度)の課題・改善方法		よりみち広場の存在はほぼ周知されてきた。次年度も神木ほのぼの館にて各種講座を行い、多くの方に活用していただけるような取り組みを行う。 地域の方の意見をきき、ネットワーク作りにも力をいれていきたい。						
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D						
担当者		梶原						

事業名		ささえあいサービス																											
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ( )																											
事業概要	目的	「困ったときはお互いさま」の気持ちを大切に、日常生活での困りごとに関してサポートするサービスで、誰もが安心して暮らせる町づくりの推進を目的とする。																											
	実施内容	提供会員が利用会員のお宅で次のような生活支援をおこなうための調整業務 簡単な草取り 買い物 ゴミ出し 通院、外出の付き添い 墓の掃除 見守り 住居の清掃、整理整頓 衣類等の洗濯や補修 など																											
	利用料	年会費700円(提供会員・利用会員等) 利用券500円/時 補助券100円/時(土日祝祭日及び時間外に使用)																											
	達成目標	会員登録を増やし(特に提供会員)、サービスの充実を図る。																											
事業実績		<p>年間延べ利用数 538件</p> <p>月別利用数</p> <table border="0"> <tr> <td>4月:43件</td> <td>5月:39件</td> <td>6月:31件</td> <td>7月:42件</td> </tr> <tr> <td>8月:30件</td> <td>9月:41件</td> <td>10月:56件</td> <td>11月:49件</td> </tr> <tr> <td>12月:56件</td> <td>1月:54件</td> <td>2月:36件</td> <td>3月:61件</td> </tr> </table> <p>内容別利用数</p> <table border="0"> <tr> <td>見守り:50件</td> <td>付き添い:12件</td> <td>掃除・住居の整理:84件</td> </tr> <tr> <td>墓掃除:16件</td> <td>ゴミ出し:64件</td> <td>庭の手入れ:18件</td> </tr> <tr> <td>安否確認:5件</td> <td>散歩:54件</td> <td>食事作り:94件</td> </tr> <tr> <td>布団干し:2件</td> <td>窓拭き:3件</td> <td>買い物:26件</td> </tr> <tr> <td colspan="3">身の回りの世話:55件</td> </tr> </table> <p>会員登録者数 利用会員:40名 提供会員:15名</p>	4月:43件	5月:39件	6月:31件	7月:42件	8月:30件	9月:41件	10月:56件	11月:49件	12月:56件	1月:54件	2月:36件	3月:61件	見守り:50件	付き添い:12件	掃除・住居の整理:84件	墓掃除:16件	ゴミ出し:64件	庭の手入れ:18件	安否確認:5件	散歩:54件	食事作り:94件	布団干し:2件	窓拭き:3件	買い物:26件	身の回りの世話:55件		
4月:43件	5月:39件	6月:31件	7月:42件																										
8月:30件	9月:41件	10月:56件	11月:49件																										
12月:56件	1月:54件	2月:36件	3月:61件																										
見守り:50件	付き添い:12件	掃除・住居の整理:84件																											
墓掃除:16件	ゴミ出し:64件	庭の手入れ:18件																											
安否確認:5件	散歩:54件	食事作り:94件																											
布団干し:2件	窓拭き:3件	買い物:26件																											
身の回りの世話:55件																													
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 やや必要 不必要 公的サービスだけでは対応できないことに対する必要性は高い。																											
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい 利用会員の生活支援として一定の成果を上げている。																											
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分 件数も増え、利用会員の要望にある程度応えることができた。利用会員の増加はあるものの、提供会員はさほど変わっていない。																											
	その他の評価(所感)	初回の相談のとき、自宅に訪問しニーズを確認することにより、総合相談窓口の一つとしての役割をになうことができた。介護認定がおりるまでの期間や介護保険の枠内ではできないことに対するニーズが多く、このサービスで補うことができた。今年度は定期的に行うサービスも増え、人と人とのつながりという面でも成果があった。																											
今後(次年度)の課題・改善方法		提供会員が少ないので一人一人の負担が大きくなることもある。名前は知っていても内容についてはまだまだ知らない方が多いので、いろいろな場面でPRし会員を増やし、多様なサービスができるようにすると共に、同地区内での会員同士のサービス提供を目指す。																											
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D																											
担当者		洞																											

事業名		福祉映画上映会
財源元		<input checked="" type="checkbox"/> 委託      補助      自主財源(      )
事業概要	目的	子どもから大人まで多くの方に、楽しみながら分かりやすく福祉についての関心と障がいやバリアフリーについて理解していただくことを目的に開催する。
	実施内容	福祉映画の上映
	利用料	無料
	達成目標	多くの方に見に来ていただき、福祉や支え合いについての理解を深めていただく。
事業実績		<p>H21年度は、人と人とのつながりをテーマに、映画上映会を開催した。</p> <p>日時：平成22年3月14日15:00～17:00</p> <p>場所：尾呂志学園 高千良ホール</p> <p>映画名：西の魔女が死んだ</p> <p>入場者数：70名</p> <p>後援：御浜町、御浜町ボランティア連絡協議会 御浜町民生委員児童委員協議会</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> やや必要      不必要 幅広い世代にわかりやすく福祉への関心をもっていただく手段として必要。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい      やや小さい      小さい 人と人とのつながりを深めるため、実際に地域で自分ができることを考えてもらうきっかけになった。
	達成度	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成      やや不十分      不十分 来場者には人のつながり、助け合いに理解をしてもらえたが、来場者数自体が少し少なめだった。
	その他の評価(所感)	内容に関しては、来場者の話からも心に響くいい映画と言う感想からも、今回のテーマに沿った映画を選定することができた。 例年、中央公民館で開催していたことで尾呂志の方の来場が少なかった。今回は、高千良ホールで開催したことで、来場者は少なかったものの、初めての方にも来て頂くことができた。
今後(次年度)の課題・改善方法		PRを徹底し、集客数を増やしてより多くの方に見ていただく。また、映画だけに限らず、理解を得るものもないか検討していく。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B      C      D
担当者		芝、山崎

事業名		あいあい祭り
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金・社協会費）
事業概要	目的	「あいあい祭り」は、子どもや両親・祖父母といった家庭内や、近所や地区といった地域などのさまざまな人間関係が希薄化している中で、つながりのきっかけとなり大切さを認識していただくことで、支え合いが広がっていくことを目的に開催する。
	実施内容	福祉に関するお祭りとして、メインのテーマを決めそれにそった福祉啓発イベントや家族で楽しめるイベント等を年に1回おこなう。 テーマや内容等については、一般の方と職員で実行委員会を組織して決定していく。
	利用料	
	達成目標	祭りの時だけ楽しむのではなく、帰ってから家族やご近所の方と会話のきっかけとなったり、おこなったことを継続していただけるようにする。
事業実績		<p>第3回目となる今回も、“みんなで地域を作っていること”に視点をあてた。この「地域」とは、一定の場所の意味ではなく、人の関係からなりたっているものと考えます。第2回はそのきっかけとして大切な『あいさつ』をテーマに行い、今回はその後続く一言を大切に気づいていただけるイベントを企画し開催した。</p> <p>日時：8月23日 15時から18時 場所：御浜町福祉健康センター 内容 テーマ 心とます 笑顔の一言 イベント ・なごみのコーナー ・木工工作コーナー ・竹細工コーナー ・ビーズ作りコーナー ・バルーンアート ・ゲームコーナー ・マンドリン演奏会 ・竹とんぼ大会 ・フリーマーケット ・駄菓子屋 ・施設バザー ・模擬店 ・ステシル体験コーナー ・ポン菓子実演販売 ほか 参加人数 来場者 520名 ボランティア 135名</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> やや必要 不必要 家族等の交流やふれあい支え合いのきっかけ啓発としての必要性は高い。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい 入場者数は目標どおりであった。ボランティアは年々増加しており成果があったように思う。
	達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 やや達成 やや不十分 不十分 家族での参加も多くあり、なごみのコーナーを通じて人と人とのつながりができ、一定の目的は達成できたと思う。
	その他の評価（所感）	3回目ということで来場者も増加し、より多くの方に浸透してきているようである。新規コーナーを通じて、社協と新たな関わりができた方も多くいた。 実行委員は、定期的に変更するようにしたことで、新しいアイデアもありイベントとしても充実してきているように思う。
今後（次年度）の課題・改善方法		送迎バスを運行したが、4名の利用しかなく、来年度は運行について検討する必要がある。また、晴天で暑かったためか、夕方になり来場者が増加したことから、時間についても検討する必要がある。
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A B C D
担当者		芝

事業名		福祉コミュニティ推進事業
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業概要	目的	この事業は、地域内における児童福祉と地域福祉の推進を図る観点から、子どもを含めた地域住民が数多く参加し、地域内の人と人とのつながりを深めるとともに世代間交流等の促進を通じて、地域福祉コミュニティの形成を図ることを目的とする。
	実施内容	児童福祉及び地域福祉の推進を図ること等を目的に大字単位で開催されており、公共性の高い団体が主催する行事やイベントに対して5万円を上限に助成をおこなう。
	利用料	
	達成目標	助成事業を通じ地域の世代間交流の促進を図る。
事業実績		<p>H21年度は3地区へ助成。</p> <p>地区別の使途内容</p> <p>尾呂志地区 夕涼み会 志原地区 育成会勉強会&amp;夕涼み会 神木地区 神木地区夏祭り</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> やや必要    不必要 地域のコミュニティ事業を充実させるために必要。
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> やや大きい    やや小さい    小さい それぞれの地区において多くの世代間の参加があった。
	達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> やや達成    やや不十分    不十分 育成会を中心に子どもから高齢者まで多くの交流を図る機会となっている。
	その他の評価（所感）	地域が独自でコミュニティ事業を開催する場合、金銭の確保が問題となることが多い。このようなケースにおいて、十分な役割を担っているように考える。 H21年度は、神木地区の夏祭りへスタッフとして参加したことで、日ごろ関わりのない地区の役員の方や小学校・中学校のPTAの方とのつながりができた。
今後（次年度）の課題・改善方法		助成している全地区への行事へ参加したいが、同日に行われていることもありすべてに参加できなかった。H22年度は、他地区へ参加し関わっていく。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B    C    D
担当者		梶原

事業名		社協・福祉の情報提供関連事業
財源元		<input checked="" type="checkbox"/> 委託      補助      自主財源 (      )
事業概要	目的	住民への福祉啓発や福祉等の情報の提供と共に、社協の活動の理解やPRを目的におこなう。
	実施内容	社協だよりの発行の毎月発行 ホームページ 防災無線の活用 地方新聞の活用
	利用料	
	達成目標	社協だよりの発行やホームページを通じて、より多くの方に啓発やPR、福祉情報等の提供をおこなう。
事業実績		<p>社協だよりの 広報みはまに折り込んで毎月発行。基本6ページ。 (5月・7月・1月号のみ8ページ)</p> <p>内 容 表紙                      行事予定カレンダー      特集(さまざまな分野) 事業報告                  福祉制度報告              ボランティア関連記事 社協係紹介              ほか</p> <p>広報委員会 発行にあたって職員7名で広報委員会を設置して、毎月委員会を開設し、記事の調整をおこなった。また、委員会においては、記事だけではなく、より多くの方に興味を示していただくための、レイアウトや記事の書き方の勉強などもおこなう。</p> <p>ホームページの設置 内 容 社協紹介                      事業の募集や案内      ブログを活用した事業報告 職員紹介                      社協だよりの掲載      リサイクル伝言板 事業・決算報告              ご意見及びご相談に関すること</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> やや必要      不必要 新しい制度の紹介や情報など、住民の方へ伝えるために定期的に広報していく必要がある。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい      やや小さい      小さい 募集記事に対して、今まで社協とは接点のない方からの問い合わせも増えてきている。
	達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 達成      やや達成      やや不十分      不十分 社協だよりの毎月発行やホームページの定期的な更新をおこない、啓発やPR・情報提供をおこなうことができた。
	その他の評価(所感)	講座やボランティア等の募集記事を見たという反応も増加してきており、多くの方に見ていただけるようになってきたと感じる。
今後(次年度)の課題・改善方法		社協だよりにについては、記事の充実を図っていくと共に、多くの方に見ていただける工夫をしていきたい。 HPについては、数年大幅な変更をおこなっていないためリニューアルも検討していきたい。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B      C      D
担当者		芝

事業名		心配ごと相談所開設事業												
財源元		<input checked="" type="checkbox"/> 委託 補助 自主財源( )												
事業概要	目的	悩みごとや不安ごとを相談する場所を作り、それらの解消をすると共に、出てきたニーズから町内の共通ニーズを分析し、福祉のまちづくりにつなげていくことを目的に実施する。												
	実施内容	毎月第3水曜日に役場において開設する。相談所は、多くの相談に幅広く応えられるよう、行政相談・人権相談と合同でおこなう。												
	利用料	無料												
	達成目標	多くの方に利用していただく。相談内容から福祉ニーズを発掘する。												
事業実績		<p>開設日数：12日(毎月1回)</p> <p>相談員：宮本 厚志 氏</p> <p>取扱件数：25件</p> <p>内容内訳</p> <table border="0"> <tr> <td>生計1</td> <td>職業・生業1</td> <td>住宅4</td> </tr> <tr> <td>離婚1</td> <td>医療1</td> <td>人権・法律2</td> </tr> <tr> <td>財産6</td> <td>母子・父子福祉1</td> <td>健康・保健・衛生2</td> </tr> <tr> <td>障がい者(児)福祉1</td> <td></td> <td>苦情5</td> </tr> </table>	生計1	職業・生業1	住宅4	離婚1	医療1	人権・法律2	財産6	母子・父子福祉1	健康・保健・衛生2	障がい者(児)福祉1		苦情5
生計1	職業・生業1	住宅4												
離婚1	医療1	人権・法律2												
財産6	母子・父子福祉1	健康・保健・衛生2												
障がい者(児)福祉1		苦情5												
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> やや必要 不必要 相談できる機会や場所が多くあるほうが望ましく一定の必要性がある。												
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい すべての相談に対して専門的な窓口へつながった。												
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分 開設日数から見ると多くの方にご利用いただいた。												
	その他の評価(所感)	相談の内容が多様化している。相談数が前年度より減少しているが、介護等に対する相談先が増えたことによるものと考えられる。												
今後(次年度)の課題・改善方法		専門機関とスムーズな連絡が取れるようになに検討していく。												
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D												
担当者		芝												

事業名		地域福祉権利擁護事業
財源元		委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ( )
事業概要	目的	高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力に不安のある方に対して、書類預かり・日常的な金銭管理・福祉サービスの利用援助をおこない安心して在宅生活を送っていただくことを目的とする。
	実施内容	この事業は、熊野市社会福祉協議会が南郡・熊野地域の基幹として実施主体となっており専門員を中心にサービスが提供される。御浜町社協としては、推進員(職員)として日常的な事務や生活支援員(ボランティア性の高いパート職員)との連絡、非常時の訪問などをおこなう。 利用者1人1人に権利擁護の専門員が支援計画を作成し、その計画に基づいて生活支援員がサービスを提供する。
	利用料	訪問1回につき1,000円(非課税世帯は無料) 書類預かり年間3,000円(貸金庫代)
	達成目標	訪問販売等からの金銭保護と福祉サービスの利用援助。サービスが必要な方の掘り起こし。
事業実績		利用者： 9名(新規利用者1名・途中解約1件) 内訳・・・認知症性高齢者8名、知的障がい者1名 生活支援員： 3名 訪問延べ回数： 160件
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要      やや必要      不必要 サービス費用の支払い等の日常的な金銭管理など必要性は高い。
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> やや大きい    やや小さい    小さい 新規利用者も1名あり、安定した生活を送っていただいている。
	達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 達成      やや達成      やや不十分      不十分 継続的にサービスを提供しており、安定した生活や福祉サービス利用につながっている。
	その他の評価(所感)	この制度を利用することで、詐欺や悪徳商法などから金銭を守るだけでなく、金銭感覚や管理能力の弱まっている方の財産を保護することにもつながっている。 利用者の判断能力が損失に近づいた場合、この制度だけでは対応できず、成年後見制度との連携についてもすすめていく必要がある。
今後(次年度)の課題・改善方法		現在の状況を見ると、今後も利用者の増加が見込まれ、生活支援員の確保と共に成年後見制度との連携についてもすすめていく必要がある。
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A      B      C      D
担当者		芝

事業名		あんしん訪問相談事業					
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（社協基盤整備積立金）					
事業概要	目的	一人暮らしや虚弱高齢者等のうち地域社会等と関わりを持たず、つながりが希薄となり孤立する世帯に対して、地域福祉係担当職員及び訪問活動員が定期的に訪問し、社会的孤立感の解消及び地域社会とのつながりづくりをおこなうと共に福祉ニーズの早期発見を行う。					
	実施内容	地域とのつながりが希薄となり、孤立する高齢者・障がい者などの世帯で日常生活に不安を抱えていたり緊急時の対応が心配な方を民生委員及び関係機関と連携し、地域福祉担当職員及び訪問活動員が月1回程度訪問する。 訪問時の状況及び日常会話の中からあがってきた困りごとやニーズに対して各種機関につなげていく。					
	利用料	無料					
	達成目標	訪問時の様子、会話等からニーズをキャッチし、各種機関へつなげていく。					
事業実績		訪問回数(計 212回)					
		4月 20件	5月 19件	6月 24件	7月 21件	8月 16件	9月 17件
		10月 19件	11月 19件	12月 18件	1月 14件	2月 13件	3月 12件
		登録者11名(H22年3月31日現在)					
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 やや必要 不必要 一人暮らしや虚弱高齢者世帯が安心して暮らしていくためにこのようなサービスの必要性は高い。					
	成果	<input checked="" type="checkbox"/> 大きい やや大きい やや小さい 小さい いくつかのニーズや困りごとの解決につながっている。					
	達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 やや達成 やや不十分 不十分 ニーズや困りごとの度合いは様々であるが、訪問時の本人の様子や会話の中でみつけるケースが多い。					
	その他の評価(所感)	平成21年2月に訪問活動員の交代があったがその後も問題もなくスムーズに進んできた。 日常生活に不安を感じている方や家族が、安心して自宅で今の生活が送れるための支援のひとつとして大変本人や家族にも喜ばれている。 御浜町地域包括支援センターからの情報など関係機関との連携もとれている。					
今後(次年度)の課題・改善方法		関係機関との情報共有化も図れ、昨年同様今後も継続していく。					
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A B C D					
担当者		梶原					

事業名		フレンドの会
財源元		委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業概要	目的	普段、外出をすることが比較的困難と思われる知的障がいのある方に、外出の機会やさまざまな体験をしていただくことで生活範囲の拡大と生活意欲の喚起を図り、社会参加と自立促進につなげていただくことを目的とする
	実施内容	参加者の方と内容を協議しながら、主に外出をメイン（1泊旅行含む）に年5回の事業を行う。
	利用料	内容に異なる（100円～300円） 1泊旅行（対象者10,000円 ボランティア7,000円）
	達成目標	様々な体験をしていただき、参加者で内容を検討していただくことで、自主性の助長を図る。
事業実績		<p>外食会&amp;足湯（4月10日） 場 所：茶話（尾呂志）、足湯（紀和町） 参加者：8名（ボランティア2名）</p> <p>手作り弁当&amp;ピクニック（6月12日） 場 所：福祉健康センター、田代公園（紀宝町） 参加者：8名（ボランティア3名）</p> <p>お菓子作り（9月11日） 場 所：福祉健康センター 参加者：7名（ボランティア3名）</p> <p>一泊旅行（11月15日～16日） 場 所：琵琶湖・信楽陶苑たぬき村 内 容：ミシガンクルーズ乗船、陶芸教室体験 参加者：5名（ボランティア1名） ショッピング&amp;ランチ</p> <p>ショッピング 場 所：新宮ジャスコ 参加者：7名（ボランティア2名）</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> やや必要 <input type="checkbox"/> 不必要 一人での外出が困難な方に様々な機会を提供することは、知的障がい者に対して一定の役割を果たす。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい <input type="checkbox"/> やや小さい <input type="checkbox"/> 小さい 日程の連絡後から当日までの楽しみの目標として、生活喚起につながっている。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 <input type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 不十分 外出によりいろいろな体験をしていただくことができた。行き先や内容などの検討などある程度の意見を出していただくことができ、自主性の助長にもなった。
	その他の評価（所感）	すべてのプログラムを提供されるだけでなく、自分で選択する環境を作ったこともよかったように思う。1泊旅行は50年ぶりという方もあり、視野を大幅に広げていただくことができた。すべての内容に対してボランティアの参加があり、対象者が多くの方にふれあういいきっかけとなっている。
今後（次年度）の課題・改善方法		さらに家族やボランティアなど支援者を作っていくことを検討する。自主性の助長についてもよりよい方法を検討する。
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B C D
担当者		坂・山崎・芝

事業名		うたとケーキのクリスマス会
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（歳末助け合い配分金）
事業概要	目的	クリスマス会を通じて、子供やその保護者、障がい者の方、ボランティアの方がその枠を超えて、人と人とのつながりの大切さを感じてもらおうと共に、新しい年を楽しく迎えるための力を蓄えていただく。また、ひとりひとりが自分のできるところを協力しながら行い、出来上がったケーキと一緒に味わうことで、作りあげた達成感を共有し、交流を深めていくことを目的とする。
	実施内容	子供とその保護者、障がいのある方を対象に、ボランティアの協力を得て、ケーキ作りと歌のクリスマス会を開催する。
	利用料	100円
	達成目標	ひとりひとりが自分のできるところを協力しながら行い、達成感を共有し、交流を深める。
事業実績		<p>日時：12月25日（金） 13:00～ （障がい者のみ10時からスポンジケーキ作り）</p> <p>場所：御浜町福祉健康センター</p> <p>内容：ケーキ作り、会場作り、演奏会 レクリエーションなど</p> <p>参加人数：50名</p> <p>対象者：フレンドの会（知的障がい者） プチトマト（子供ボランティアグループ） 子どもの広場自主活動参加者（子供と保護者） ボランティア</p>
事業評価	必要性	必要 <input checked="" type="checkbox"/> やや必要 不必要
		子どもや障がいのある方などの枠を超えて、交流する場の提供は必要と考える。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい
		多くの方に参加していただき、楽しんでいただいた。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分
その他の評価（所感）	それぞれの得意なことを生かして取り組まれ、それぞれの枠を越えた交流が図れていた。	
今後（次年度）の課題・改善方法		保護者の方が積極的に関わってくれたことで、今までとは雰囲気の違いの違う歳末事業となった。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
担当者		芝



事業名		生活交流会
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業概要	目的	南郡・熊野市の在宅で生活している知的障がい者(児)がレクリエーションや創作的活動を通じて社会参加と交流の機会をつくることで、生活範囲の拡大と保護者の相互理解を広げることを目的とする。
	実施内容	開催にあたっては、運営委員会を開催し参加者のニーズや昨年度の意見を考慮しながら決定している。また、運営委員会では、参加者のケース検討などもおこない社会参加やエンパワーメントの助長方法も検討する。 生活交流会の開催（年6回） 運営委員会の開催（年3回）
	利用料	内容により異なる(100円～500円)
	達成目標	社会参加の促進を図る
事業実績		<p>前年まで毎月1回の開催であったが、参加者の増加や世代等の幅が広がったことから2ヶ月に1回の開催となった。（減少分については、フレンドの会の回数を増加）</p> <p>対象者数 8名  月別参加人数 5月：7名 7月：8名 10月：7名 12月：7名  1月：7名 3月：7名</p> <p>月々の行事内容  5月：ボウリング大会（東宝ボウル）  7月：七夕祭り（御浜町福祉健康センター）  10月：パーベキュー（紀宝町親水公園）  12月：クリスマス会（御浜町福祉健康センター）  1月：書初め大会（紀宝福祉センター）  3月：上映会と思い出作り（熊野市保健福祉センター）</p>
事業評価	必要性	必要 <input checked="" type="checkbox"/> やや必要 不必要 社会参加する機会の少ない方々に対して機会を提供する必要性は高い。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい 自立促進や生活意欲の喚起として一定の成果は上がっている。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分 多くの行事により社会参加の促進をはかることができた。
	その他の評価（所感）	今年度から年6回の開催になり、内容は要望の多かった内容を中心に行なった。2ヶ月に一度の交流で参加者同士は今まで以上に新鮮な感覚があった様に思う。内容的にも3社協が協力するものばかりだったので、声の掛け合いや協力する姿も見られた。 開催が年6回になった事でスタッフ側は準備面に余裕ができた。
今後（次年度）の課題・改善方法		地域との交流行事がなかったので取り入れていけるようにする。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
担当者		坂・山崎・芝

事業名		声の広報配布事業
財源元		<input checked="" type="checkbox"/> 委託      補助      自主財源（      ）
事業概要	目的	ボランティアが町広報誌や社協だよりを朗読したテープを配布することで、視覚障がい者や弱視の高齢者の方が、情報を入手したり、ボランティアが視覚障がい者と関わることで障がい者への理解を深めることと、ふれあいを大切にすることを目的とする。
	実施内容	ボランティアグループ「しおり会」の活動として、毎月、視覚障がい者、弱視の方を対象に「広報みはま」と「社協だより」をテープに吹き込んで自宅まで届け、希望があれば小説等の朗読も行う。
	利用料	無料
	達成目標	毎月、「広報みはま」「社協だより」を朗読しお届けする。配布希望者を増やす。
事業実績		毎月1回、月末に朗読し希望者へ配達を行った。  対象者数：5名  しおり会会員数：7名
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要      やや必要      不必要
		視覚障がい者や弱視高齢者にとって町の情報を得る大きな資源となっている。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい      やや小さい      小さい
		テープを聴くことで得た情報が役立っているようである。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成      やや不十分      不十分
毎月、ボランティアの協力によりお届けすることができているが、新規利用の希望者はいない状況である。		
その他の評価（所感）	対象者数が1名減り5名になったのは残念だ。弱視の方にも聞いていただきたく、情報誌などで募集しているが今のところ申し込みはない。高齢者の方にも利用してもらえればと思う。	
今後（次年度）の課題・改善方法		対象者を増やすのに、これまで行ってきた情報誌だけの募集だけでなく、町内のデイサービスなどにも呼び掛けていきたい。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B      C      D
担当者		梶原

事業名		福祉車両貸出事業					
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（社協基盤整備積立基金）					
事業概要	目的	重度の身体障がい者の方や要介護者の方が、通院や公共機関への用務をおこなう際の外出支援を目的としている。					
	実施内容	身体障がい者等の方が通院等の理由により外出する際、福祉車両の貸出をおこなう。 貸出車両：車イス車両（軽）、ストレッチャー車両（軽） 対象者：移動の際に車イス及びストレッチャーが必要な方とその家族 用途：通院、公共機関への用務、施設の入退所等 利用回数：原則週1回 予約必要					
	利用料	運行範囲が御浜町内であれば無料。町外を運行する場合は、ガソリンを補充していただく。					
	達成目標	サービスの利用促進。					
事業実績		車イス（計31件）					
		4月 0件	5月 0件	6月 0件	7月 1件	8月 1件	9月 1件
		10月 0件	11月 0件	12月 1件	1月 8件	2月 11件	3月 8件
		ストレッチャー（ベット）車両（計9件）					
		4月 1件	5月 1件	6月 2件	7月 1件	8月 1件	9月 1件
		10月 0件	11月 0件	12月 0件	1月 1件	2月 0件	3月 1件
事業評価	必要性	必要 <input checked="" type="checkbox"/> やや必要 不必要					
		利用数は減少しているものの、一定のニーズがある。					
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい					
		家族が付き添う場合など、介護者・利用者の負担軽減につながっている。					
	達成度	達成 やや達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや不十分 不十分					
利用数は減少している。							
その他の評価（所感）		福祉有償運送サービスや介護タクシーにより件数は少ないものの、遠方への通院や家族による送迎など一定のニーズがある。また、町外からの利用問い合わせがくることもある。					
今後（次年度）の課題・改善方法		住民の方にもっとわかり易くPRし、より多くの方に活用していただけるように働きかける。					
総合評価		A B <input checked="" type="checkbox"/> C D					
担当者		洞、古川					

事業名		福祉機器貸出事業
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（利用者自己負担）
事業概要	目的	在宅の障がい者や高齢者の福祉機器を必要な方に対して、ベッド等の福祉機器を貸出することで在宅介護支援を目的としている。（他制度優先）
	実施内容	対象者：町内に在住の方で福祉機器が必要な方 （介護保険対象外高齢者、身体障がい者、病気・けが人等） 貸出用具：介護ベッド、車イス、電動吸引機、（エアマット） 利用料金：短期利用者は無料（2週間程度）、それ以上は有料（半年間前払い）
	利用料	介護ベッド 1,000円/月 車イス 400円/月 電動吸引機 500円/月（チューブ代別）（エアマット 800円/月）
	達成目標	必要な方に対して貸出を行う。
事業実績		<p>電動吸引機（長期貸し出し者2件）</p> <p>介護ベッド（長期貸し出し者11件）  4月:0件 5月:0件 6月:5件(3) 7月:3件(3)  8月:1件 9月:1件(1) 10月:0件 11月:3件(3)  12月:3件(2) 1月:3件(2) 2月:3件(2) 3月:1件(1)</p> <p>車イス（長期貸し出し者1件）  4月:5件(1) 5月:1件 6月:3件(1) 7月:5件(1)  8月:4件 9月:8件(1) 10月:2件 11月:1件  12月:4件 1月:1件(1) 2月:4件(2) 3月:0件</p> <p>エアマット0件</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 やや必要 不必要 介護保険の貸出対象とならない方や障がい者の方に必要。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい 利用者や家族の在宅生活の支援に役立っている。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分 機器によっては利用数も増加しており、適切な貸出を行った。
	その他の評価（所感）	介護ベッドの長期貸し出しの件数が増加しており、そのニーズに対応することができた。また一方で一時帰宅や外出等による一時貸し出しのニーズ（特にお盆、正月）にも対応でき、利用者及び家族の方に喜んでいただいた。
今後（次年度）の課題・改善方法		引き続き、住民に対して積極的に福祉機器貸出事業のPRをおこなっていく。老朽化してきた機器もでてきたので、助成事業などを利用して換えていく。またエアマットの利用がないことと老朽化を考え、検討していく必要がある。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
担当者		洞、古川

事業名		在宅介護者に対する支援事業
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業概要	目的	在宅で寝たきりや認知症・障がいの方を介護されている方々が共に集い、お互いの意見交換をしてより良い介護を目指すと共に、リフレッシュすることを目的とする。
	実施内容	在宅で寝たきりや認知症・障がいの方を介護されている家族の方々を対象に「在宅介護者のつどい」を開催する。
	利用料	参加費として、一人当たり1,000円
	達成目標	在宅介護家族へ交流や学習の機会を通じてリフレッシュを図るとともに、介護者のニーズの発掘をおこなう。
事業実績		<p>「在宅介護者のつどい」の開催</p> <p>日時：平成22年2月26日</p> <p>場所：澗流荘（熊野市紀和町）</p> <p>内容： 地域包括支援センターによる『悪徳商法』の講話 自力整体 ミニレクリエーション 昼食 参加者同士の交流と情報交換</p> <p>参加者：9名</p>
事業評価	必要性	必要 <input checked="" type="checkbox"/> やや必要 不必要 介護者同士の交流の機会の確保としての必要性は高い。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい やや小さい 小さい 互いの悩み相談に結びついている。地域福祉ワーカーとのつながりを作るよい機会にもなっている。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分 リフレッシュしていただくための事業としては目標を達成している。
	その他の評価（所感）	在宅の介護者を対象とする支援サービスが少ない状況では、介護者同士の交流や勉強会、レクリエーションなどを通じてリフレッシュできると共に、同じ介護をしている同士が介護の悩みなども解決できる良い機会を社協が提供することは大切である。
今後（次年度）の課題・改善方法		参加者数が少ないことから、より多くの方に参加いただき、普段では発掘できないニーズを発掘する努力を図る必要があると考える。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
担当者		芝

事業名		生活福祉資金
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（事務費として県社協から補助あり）
事業概要	目的	低所得者、障がい者又は高齢者に対し、資金の貸付と必要な援助指導をおこなうことにより、その経済的自立及び生活意欲の助長促進ならびに在宅福祉及び社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるようにすることを目的にする。
	実施内容	資金貸し付けに関する相談 貸付申請・更新手続き 貸付者への状況・督促の連絡
	利用料	
	達成目標	必要世帯に対する新規貸付及び滞納者からの償還を図る。
事業実績		<p>現在の貸付状況 貸付件数 7件 貸付資金名 教育支援（修学）資金 7件</p> <p>年度内の償還等の状況 滞 納 2件 償還完了 2件</p> <p>新規申請状況 教育支援（修学）資金 1件（不決定） 生業費 1件（不決定） 緊急小口貸付 1件</p> <p>相談件数 9件</p>
事業評価	必要性	必要 <input checked="" type="checkbox"/> やや必要 不必要
	成果	大きい <input type="checkbox"/> やや大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや小さい 小さい 教育支援（修学）資金として現在も活用されている。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分 申請2件。滞納者からの償還もあまり進んでいない。
	その他の評価（所感）	10月から生活福祉資金が大きく見直され、総合支援資金や緊急小口貸付資金など離職者等に対する貸付が充実したことにより、相談数は多少の増加となった。しかし、必要性は感じるが条件に該当しない相談もあり資金のあり方について考えさせられるケースもある。 現在の償還状況は、一部を除き順調である。
今後（次年度）の課題・改善方法		
総合評価		A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
担当者		芝

事業名		しあわせ金庫
財源元		委託 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源( )
事業概要	目的	町内居住している低所得者に対し、生計を立てていく上で必要な資金貸し付けをおこなうことにより、その経済的自立の助長を図り、福祉の増進に寄与することを目的としている。
	実施内容	町内に3ヶ月以上在住している低所得者(原則として、生活保護法基準の約2倍以内の所得者)で、他からの借入が困難で経済上の困難を招来した者、在住する地域の担当民生委員が貸付が必要と認めた者、その他、社協会長が特に必要と認めた者に対して、1件につき100,000円までを限度に貸付をおこなう。
	利用料	
	達成目標	必要世帯に対する新規貸付。滞納者からの償還。
事業実績		貸付者数：14件 償還完了：1件
事業評価	必要性	必要 <input checked="" type="checkbox"/> やや必要 不必要 他の貸付資金に比べ、申請から決定までが早く緊急性の高い事柄には有効だが、生活福祉資金の小口資金の間口が広がったことで必要性は低くなっている。
	成果	大きい <input type="checkbox"/> やや大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや小さい 小さい 新規貸付なし。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 やや不十分 不十分 償還完了者が1件
	その他の評価(所感)	現在、償還が難しいケースがあり、貸付日が昭和からと古いものが多い。 近年では、新規で貸付をおこなったケースは、償還済みとなるものがほとんどである。 保証人を立てていただき、審査会をしっかりとこなしているためだと思う。 生活福祉資金の小口貸付により、この貸付資金のあり方をもう一度考える必要があると思われる。
今後(次年度)の課題・改善方法		生活福祉資金の小口貸付制度を優先的に活用していきたい。 滞納者の償還促進と実情の確認をおこなう。
総合評価		A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C D
担当者		芝

事業名		御浜町民生委員児童委員協議会の運営支援活動
財源元		委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ( )
事業概要	目的	厚生労働大臣の委嘱を受けた御浜町の民生委員児童委員・主任児童委員で構成される協議会の運営を支援するとともに、相互に協働・連携を図りながら地域福祉を高める活動を展開する。
	実施内容	書記、会計、運営の事務支援
	利用料	
	達成目標	御浜町民生委員児童委員協議会の自主性を尊重しながら、一緒に地域又は町全体の福祉社会の育成に努める。
事業実績		<p>総会、全体会議、研修会に関する連絡調整や書記、会計業務を行う。</p> <p>主な内容  町民児協総会の開催 全体会議(2回)の開催  役員会(3回)の開催 地区別民児協会議の開催  社協との合同による研修会の開催  県民児協主催研修会及び会議への参加  主任児童委員紀州ブロック会議・研修会への出席  社協・地域包括支援センターとの協働による災害時要援護者の選定  社協との協働による高齢者見守り活動の準備</p>
事業評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要      やや必要      不必要 社会福祉協議会と民生委員児童委員協議会の目標は福祉のまちづくり、地域福祉の推進という点で一致しており、双方の連携活動の重要性からも必要度は高い。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい      やや小さい      小さい 連携が取りやすいため、地域の情報の共有化が図りやすい。
	達成度	達成 <input checked="" type="checkbox"/> やや達成 <input type="checkbox"/> やや不十分      不十分 次年度から始まる高齢者の見守り活動の準備を通じて、地域ボランティアと関わる機会が増え、地域福祉の推進役としての機能充実を図ることができた。
	その他の評価(所感)	
今後(次年度)の課題改善方法		行政、地域包括支援センターとの連携を図り、災害時要援護者のデータの活用、更新方法を検討していく。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B      C      D
担当者		芝

事業名		ボランティア連絡協議会の事務局業務
財源元		委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ( )
事業概要	目的	町内におけるボランティア活動の発展を図ることを目指すボランティア連絡協議会の支援をおこなう。
	実施内容	ボランティア連絡協議会の事務局として、連絡調整や事務処理をおこなう。
	利用料	
	達成目標	ボランティア連絡協議会の自主性を育てる。
事業実績		<p>事務局として参加したボランティア連絡協議会の会議等</p> <p>平成21年度ボランティア連絡協議会会議 日 時 : 平成21年6月26日 19時～ 場 所 : 町福祉健康センター 参加者 : 14名</p> <p>三重ボランティア基金街頭募金 日 時 : 平成21年7月8日 17時00分～18時00分 場 所 : 神志山オークワ・阿田和ピネ</p> <p>平成21年度ボランティア連絡協議会3役会議 日 時 : 平成22年1月13日 9時30分～ 場 所 : 町福祉健康センター ボランティア室 内 容 : ボランティアのつどいについて</p> <p>ボランティアのつどい 日 時 : 平成22年3月6日 7時30分～18時 場 所 : 伊勢市 参加者 : 42名</p>
事業評価	必要性	必要 <input type="checkbox"/> やや必要 <input checked="" type="checkbox"/> 不必要
		町ボランティア連絡協議会へ社協として関わる必要性は高い。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい <input type="checkbox"/> やや小さい <input type="checkbox"/> 小さい
		社協とボランティアとのつながり作りの一旦となっている。
	達成度	達成 <input type="checkbox"/> やや達成 <input type="checkbox"/> やや不十分 <input checked="" type="checkbox"/> 不十分
事務局が中心となることが多く、独立性・自主性にかける。		
その他の評価(所感)	H21年度は、初めて3役会議を開催した。意見等もまとまりやすく必要性が感じられた。	
今後(次年度)の課題・改善方法		事務局としてボランティア連絡協議会が自主的な活動につながっていくよう支援し協力していく。
総合評価		A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
担当者		梶原

事業名		御浜町共同募金委員会事務局(赤い羽根共同募金運動及び歳末助け合い募金運動)
財源元		<input type="checkbox"/> 委託      補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源(事務費の一部を共同募金会が支出)
事業概要	目的	共同募金運動への協力・支援を目的に、御浜町共同募金委員会の事務局として、一般・歳末・災害義援金の募金活動や運営委員会の開催、助成事業の手続きなどをおこなう。
	実施内容	一般募金運動(10月～12月) 歳末助け合い運動として、民生委員の協力により街頭募金を実施。 災害義援金に対する募金箱を町内各所に設置。 共同募金事務局として御浜町共同募金委員会を開催。(2回) 共同募金委員会として申請・報告等の事務。
	利用料	
	達成目標	一般募金 1,315,795円      歳末助け合い募金 50,000円
事業実績		<p>一般募金実績額 1,337,518円(達成率101.65%)</p> <p>歳末助け合い実績額 35,808円(達成率71.62%)</p> <p>歳末助け合い街頭募金の実施(12月21日)</p> <p>共同募金委員会の開催 【第1回】 9月29日 平成20年度 実績報告および決算について 平成21年度 一般募金及び歳末助け合い募金について 阿田和地区推進部会について 【第2回】 3月29日 平成22年度 使途計画及び予算について 平成21年度 一般募金及び歳末助け合い募金の結果について</p> <p>阿田和地区推進部会の開催(10月23日)</p>
事業評価	必要性	必要 <input checked="" type="checkbox"/> やや必要      不必要 全国展開している運動の実施主体として必要。
	成果	大きい <input checked="" type="checkbox"/> やや大きい      やや小さい      小さい 福祉啓発の役割として一定の成果がある。
	達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 達成      やや達成      やや不十分      不十分 一般募金は目標額に達したが、歳末助け合い募金は達成できなかった。
	その他の評価(所感)	全国的な流れとして住民の共同募金離れが進んでいる中で、御浜町では一般募金目標額を超えている。 阿田和地区の協力者が課題となっていたが、委員会等を設け検討していただいたことで、ほぼ解消された。
今後(次年度)の課題・改善方法		共同募金が地域に根付いた活動となるため、より地域に配分金を活用していただけるような事業を検討していく。
総合評価		A <input checked="" type="checkbox"/> B      C      D
担当者		芝

在宅福祉サービス事業  
及び 関連事業

事業者名・事業名		御浜町ケアサポートセンター[介護保険法] ( 居宅介護支援事業・介護予防居宅介護支援事業 )						
対応する経理区分名		介護保険経理区分		利用対象者		要支援及び要介護高齢者		
収入の状態		当初予算額	19,810,000	決算額	25,501,890	達成率	128.5%	
事業の概要	目的	要支援者及び要介護者が心身の状況や置かれている環境等に応じて本人や家族の意向を基に、サービスを適切に利用できるよう、サービスの種類、内容等の計画を作成すると共にサービスの提供が確保されるよう指定居宅サービス事業者、介護保険施設等との連絡調整、その他の便宜を図る。						
	実施内容	要介護状態となった場合においても、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営む事ができるよう配慮し、利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき、適切な保健医療サービス及び福祉サービスが多様な事業者から総合的かつ効率的に提供していく。						
事業実績	ケアプラン実数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	
		42	184	336	567	410	275	
		要介護 5	計	住宅改修件数 (年 間)	22	/		
		103	1,917					
	総 評	年度途中より、特定事業所加算 を算定する事業所となり、24時間体制で利用者及び家族に対応するために、転送用の携帯電話を当番で常時携帯している。 4月から各種加算を算定する事が出来るようになり、その条件を満たす為の情報共有や利用者への説明と理解を得る為の働きかけに時間を要したが、法令を遵守した形で算定を行うように心掛けた。また、サービス事業も多くの加算が算定できるようになり、事業所ごとに加算が異なる為、当初は各事業所の情報収集と請求事務に時間と手間をとられた。						
	課 題	サービス事業所加算算定に伴い、今まで支給限度額内で納まっていた利用者が、限度額を超えてしまうなど利用者負担が増える形になってしまった。認知症の利用者が増えており、本人の意向を把握しにくく、対応に苦慮するケースが増加した。 法令を遵守する為には、適切な記録が必要であり事務作業にかなりの時間が必要となった。						
その他 (所感等)								
自己評価		A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D	E		
改善への取組み・方向性		各種加算により今までのサービス内容に変更が生じる事もあるが、利用者及び家族に理解を求めていきたい。 認知症の利用者に対しては、本人の為の支援である事を忘れないように、家族と情報交換を行いながら支援していきたい。 法令遵守を心がけ、よりよい支援を提供できるようにしていきたい。						
特記事項								
主任	尾鼻	副主任	下平	係	榎本・岡村	記入者	尾鼻	

事業者名・事業名		御浜町ヘルパーステーション[介護保険法] (訪問介護事業・介護予防訪問介護事業)					
対応する経理区分名		介護保険経理区分		利用対象者	要支援及び要介護高齢者		
収入の状態		当初予算額	37,309,000	決算額	38,706,376	達成率	103.7%
事業の概要	目的	要支援者および要介護者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援する。					
	実施内容	ホームヘルパーが要支援及び要介護状態の高齢者の居宅を訪問し、入浴、排泄、食事の介護その他の生活全般（掃除、洗濯、買物、調理等）にわたる援助を行う。					
事業実績	年間延べ利用者数 (利用回数)	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	
		123 (741)	236 (1,638)	186 (2,641)	306 (4,066)	143 (2,115)	
		要介護 4	要介護 5	計	年間キャンセル数	利用率	
		109 (1,325)	45 (235)	1,148 (12,761)	1,082	92.18%	
	総評	4月より、サービス提供体制強化加算として、特定事業所加算を算定し、必要な体制要件や人材要件を満たす事業所として認められた。 サービスについては、昨年同様、利用者のニーズに応じて、一年365日休まずサービス提供を継続し、利用者や家族のニーズに応じてサービス提供を行った。また、サービス内容についても、昨年同様、生活援助が中心で身体介護を必要とする利用者や重介護を必要とする方の利用が少なかった。					
課題	土、日曜日の業務が可能なパートヘルパーが少なく、利用者のニーズに対し十分な対応ができない場合がある。 また、特定事業所加算の算定に伴う体制要件を満たすため、事務処理や連絡調整の量が増え、サービス提供責任者の業務が大幅に増えている。						
その他 (所感等)							
自己評価		A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D	E	
改善への取組み・方向性		ホームヘルパーの人材確保のため継続募集を行い、更にサービスの質の確保を図るため、研修や教育の機会を確保し、安定的な仕事量の供給とサービスの質の向上を目指していく。 更に、本年度も介護職員処遇改善交付金を活用することにより、職員の処遇改善に努め、ホームヘルパーの継続確保に努める。					
特記事項							
主任	赤崎	副主任		係	長田	記入者	赤崎

事業者名・事業名		御浜町デイサービスセンター[介護保険法] (通所介護事業・介護予防通所介護事業)					
対応する経理区分名		介護保険経理区分		利用対象者		要支援及び要介護高齢者	
収入の状態		当初予算額	49,600,000	決算額	48,467,061	達成率	97.7%
事業の概要	目的	利用者が居宅において、可能な限り現在の日常生活を維持・向上していけるよう、運動機能向上や認知症予防などのサービスを提供する。また、デイサービスに来ることが日常生活の中での楽しみとなるようなサービスを提供することで、利用者の生きがいにつながることを目的とする。					
	実施内容	通所介護では、「心身機能の維持・向上」「社会的孤立の解消」「利用者・家族の身体的・精神的負担の軽減」を目標に、送迎、昼食、入浴、ADL(日常生活動作)介助、レクリエーション等のサービスを提供する。 H21年度は、身体機能向上と認知症予防に加え、口腔機能向上や、よりサービスの質を向上するための見直しや、取り組みを行う。					
事業実績	年間延べ利用者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4
		77	537	1,376	1,534	1,213	601
		要介護 5	計	年間キャンセル数	利用率	/	
	95	5,433	1,422	79.23%			
	総評	<p>まずサービスの質の向上として、以前より昼食のメニューが少し冷めているとの声が聞かれたため、ご飯や汁物に関しては直前に用意し、なるべく温かい食事が提供できるよう取り組んだ。</p> <p>次に、身体機能の向上と認知症予防として、お口の体操を、おやつ後に行っていたものを昼食前に行うようにし、より意味のあるサービスとなるよう取り組んだ。また、レクリエーションと体操の充実と改善に努め、楽しみながらも身体機能向上や認知症予防に効果があるようなプログラムの思案をした。その他、お口の体操や歌・早口言葉等で声を出す取り組みや、塗り絵、文字書き、漢字の書き取り、計算などを取り入れ認知症予防を行った。</p> <p>体操については、毎週同じような内容の体操にならないよう職員間で連携し、さまざまな体操を提供するよう努めた。</p> <p>その他のプログラムとしては、入浴を利用者の身体状況に合わせた負担のかからない方法でサービス提供をおこなった。また好評を得ていたコーヒー週間は隔週で行い、定期的に楽しめるよう変更した。</p> <p>職員の資質向上については、全員が何でも出来るよう指導することや、意識の統一を図ること、定例会等で介護研修や話し合いを行うことで質の向上を図った。</p> <p>ボランティアにも参加していただき、いつもと違う雰囲気サービスが提供できた。</p>					
課題	<p>課題としては、効率的に業務を行い、各職種の連携を密にする。また、全ての職員が各業務内容を把握し、臨機応変に業務を遂行できるようにすること。そして、体操の時間も長くとり、より内容のあるものを目指し、レクリエーションやリハビリと合わせて自立支援にむけて取り組んでいく。</p> <p>また、今後も利用者や家族の求めるものを汲み取り、少しでもニーズに沿ったサービスの提供を目指していく。</p>						
その他(所感等)							
自己評価		A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D	E	
改善への取組み・方向性		<p>全ての職員が、業務内容を把握し臨機応変に業務を遂行できるよう指導を行っていき、ケース記録などについても同様に指導を行っていく。また、昼食のような件の他にも、入浴が主なニーズの場合、時間短縮でも対応していくなど、少しでも利用者本位にそえるような変更を可能な限り思案していく。</p> <p>体操やレクリエーションについては、今後も充実化を図り、リハビリについては、ケアプランにそって実施していき、本人の希望も取り入れていく。また、より楽しいデイサービスにしていけるよう、利用者とは話し、ふれあいを大切にしていく。</p>					
特記事項							
主任	中田	副主任	/	係	中尾	記入者	中尾

事業者名・事業名		神木ほのぼの館デイサービス[介護保険法] (通所介護事業・介護予防通所介護事業)					
対応する経理区分名		神木ほのぼの館経理区分		利用対象者		要支援及び要介護高齢者	
収入の状態		当初予算額	14,348,000	決算額	15,534,572	達成率	108.3%
事業の概要	目的	主に要支援1・要支援2の方を対象に、運動機能向上や認知症予防を目的にプログラムを実施し、現在の日常生活の状態が維持・改善できるよう自立に向けたサービスを提					
	実施内容	主に要支援を対象に週3回のデイサービスを行う。送迎、昼食、入浴、ADL(日常生活動作)、レクリエーション、介助等のサービスを提供する。 主な内容 毎月1回の手作りおやつ ラジオ体操 歌 かなひろい 計算 伝染病・風邪予防(うがい・手指消毒) 合奏 文字書き お口の体操 介護予防体操(棒体操・おじゃみ体操・セラバンド体操・にぎにぎ体操 他) 必要に応じて個別に理学療法士によるリハビリ指導 ケアピクス 年2回(5月・11月)に体力測定を実施と看護師による指導 らくらく体操					
事業実績	年間延べ利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4
		561	419	454	387	303	35
		要介護5	計	年間キャンセル数	利用率		
	11	2,170	544	80.02%			
	総評	H21年度は、介護予防運動メニューの改善に加え、個別を意識したりハビリメニューを多く設けるようにした。身体機能の悪化を防ぐ為、全体の介護予防運動に加え個別にメニューを組み、個々の弱点の克服と機能の維持を図った。 「デイサービスご利用アンケート」調査を利用者全員に実施。設問に対し「良くない」「あまり良くない」との回答はなく、皆様からは概ね良好との評価を頂いた。ご意見・ご感想・ご相談については、各担当にて検討し、即座に対応できることは対応すると共に、「介護計画書」及び日々の援助に反映させるようにしている。 ほのぼの館での創作品が展示してもらえる機会が増えたことにより、利用者の創作活動の意欲も高くなり、徐々にデイサービス外にも視野が広がるようになってきている。 ボランティアの方にも毎回話し相手や創作活動の手伝いなどで参加してもらい、そして、毎月一回の手作りおやつなど多くの協力を得ている。 年間計画に基づき、四季折々の行事を実施し、利用者の方にも幅広い指示を得た。 一年を通して水分補給に留意し、脱水予防として特に入浴前後の水分補給を心がけた。 職員間では、外部・内部研修会に多く参加し、知識と技術の向上に努めた。					
課題	全体的に利用者の身体機能の低下がみられた。全体でおこなう運動や体操だけでは機能の低下を防ぎきれない現状になってきている。今後は、個別に運動メニューを組んで実施できるだけの時間とプログラムを設けていく必要がある。 社会参加という観点から、引き続き多くの作品を創作してもらい、展示できるように環境の整備に努めたい。 近隣住民とのふれあいを多くし、地域に根ざしたデイサービスとして運営していくために、気軽に参加できる行事の考案や、呼びかけの工夫を図っていく。 個別のニーズの把握とそのニーズに応えていける取り組み体制の強化。 事故防止活動について、「ヒヤリ・ハット」の報告がいくつかあり、大事には至らなかったものの、今後は予測できること・予測できない事を問わず、ご利用者様の安全確保の為、目配り・気配りを怠らないようにし、危険を伴う行為・状況をできるだけ排除して改善に努めたい。						
その他(所感等)							
自己評価		A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D	E	
改善への取組み・方向性		認知症ケアに対する理解を深め、支援内容の向上を図る 地域の方や、家族の方が行事の時だけでなく、普段から気軽に参加・支援してもらえるような環境づくりをおこなう(地域住民との連携・協力) 個別ニーズの把握と、支援体制の強化 社会参加への環境整備 事故防止活動の強化 職員の外部・内部研修会への参加と勉強会の充実					
特記事項							
主任	中田	副主任	係		記入者	岡崎	

事業者名・事業名		御浜町訪問入浴サービス[介護保険法] (訪問入浴事業・介護予防訪問入浴事業)					
対応する経理区分名		介護保険経理区分		利用対象者	要支援及び要介護高齢者		
収入の状態		当初予算額	4,230,000	決算額	4,253,750	達成率	100.6%
事業の概要	目的	訪問入浴介護事業は、要介護者等がその心身の状況や置かれている環境に応じて、本人や家族の意向をもとに適正な訪問入浴介護を提供することを目的とする。					
	実施内容	自宅まで訪問入浴車で訪問し、自宅に入浴していただくサービス。2分割式の浴槽を組み立て、利用者ご本人の心身状態に応じ入浴ボードまたは入浴担架を使用し入浴を行う。その時の身体状態により清拭対応も行う。ベッドと浴槽間の移動は介護職員が介助して行う。					
事業実績	年間延べ利用者数	要支援1	要支援2	経過的要介護	要介護1	要介護2	要介護3
		0	0	0	0	24	140
		要介護4	要介護5	計	年間キャンセル数	利用率	
	79	101	344	115	74.94%		
	総評	介護度別にみると、要支援1～要介護1の介護度の低い方の利用がまったくなかった。要介護2、要介護3の方の利用が、昨年度に比べ大幅に増加している。要介護2では約5倍、要介護3では約2倍の増加がみられる。逆に、要介護4、要介護5の方の利用が少し減少しているが、全体を通してみると昨年度と大きな変化はみられない。また、1ヶ月あたりの平均延べ利用数も28件と昨年度と変化なく、なかなか増加はみられない。原因としては、体調の不良を理由とした利用中止、入院、ショートステイの利用等があげられる。					
課題	ショートステイの利用等の理由により、訪問入浴に対するニーズが低下してきている。この状況は、南牟婁郡・熊野市においても同様の傾向がみられる。キャンセルの理由で、ショートステイ利用が半数以上を占めており、なかなか利用率が伸びない。						
その他(所感等)							
自己評価		A	B	<input checked="" type="checkbox"/> C	D	E	
改善への取組み・方向性		訪問入浴事業は、経営的には厳しい面もあるが、町内で社協だけが提供しているため一定のニーズがある状況においては継続していく必要がある。					
特記事項							
主任		副主任	西口	係		記入者	西口

事業者名・事業名		御浜町ヘルパーステーション [自立支援法・町受託] (居宅介護・地域支援事業)					
対応する経理区分名		障がい福祉サービス事業 経理区分		利用対象者	身体・精神・知的障がい者・児童		
収入の状態		当初予算額	705,000	決算額	650,212	達成率	92.2%
事業の概要	目的	障害者自立支援法の趣旨にもとづき、利用者の意思と人格を尊重するとともに、常に利用者の立場にたち、居宅において日常生活が営めるよう必要なサービスを提供し生活の質の向上等を図ることを目的とする。					
	実施内容	入浴、排泄、食事、移動の介護、その他生活全般（掃除、洗濯、買物、調理等）にわたる援助を行い、また生活等に関する相談及び助言を行う。					
事業実績	年間延べ利用者数 利用回数	種 別	延べ利用者数	延べ利用回数			
		障がい福祉	39	274			
		地域支援	27	64			
	総 評	昨年度と比較し、延べ利用者数は140%、延べ利用回数は104%にそれぞれ増加した。介護者の負担軽減や利用者の将来を案じた自立支援のケースの増加がみられた。サービス内容については移動介護、家事援助が中心で、入浴や排泄等の身体介護を必要とする利用者はいなかった。					
課 題	サービス利用を急ぐケースが多いが、ケアマネジャーがいなかったため利用者の真のニーズの把握に時間がかかることが多く、調整やサービス提供時に苦慮することがある。						
その他 (所感等)							
自己評価		A	B	<input checked="" type="checkbox"/> C	D	E	
改善への取組み・方向性		役場やあしすと（紀南圏域障害者総合相談支援センター）の担当者と連携を図り、支援の必要な障がい者のニーズに応じ、真に必要なサービスが適切に提供できるよう努めていく。					
特記事項							
主任	赤崎	副主任		係	長田	記入者	赤崎

事業者名・事業名		知的障がい者デイサービス（にこにこデイ）事業															
対応する経理区分名		障がい福祉サービス事業 経理区分		利用対象者		在宅の知的障がい者等											
収入の状態		当初予算額	2,374,000	決算額	1,969,944	達成率	83.0%										
事業の概要	目的	在宅知的障がい者を対象に、町福祉健康センターで、参加者一人一人の個性を尊重し、自立生活と社会参加の支援を目的に開催。															
	実施内容	毎週木曜日に開催。午前は、健康チェック、朝の会、園芸療法(畑や花壇の草取等)。午後からは、テレビを見ながらのらくらく体操、レクリエーション、創作活動、おやつ、清掃などのサービスを提供する。 園芸福祉では豊かな心を育てると共に、充実感や達成感を感じていただけるよう支援している。また、自分の役割や参加意識を持っていただくために当番制(昼食配膳、各部屋の清掃)を取り入れている。職員と園芸ボランティア(2名)の協力を受けて季節の行事にも取り組んでいく。															
事業実績	年間延べ利用者数	340名															
	総評	<p>H21年度は、50回開催で1回平均6.8名の参加で昨年対比は83.1%であった。原因としては、利用者1名が家庭の事情で他町へ移転したため。参加者が減った為、介護職員1名減、重度の参加者が欠席の場合も職員を休ませ4人から3人に減らして開催している。</p> <p>季節の行事の際には、参加するだけでなく利用者職員とが一緒に作りあげると共に、皆で協力しあい楽しく自己表現することを感じてもらえることを大切に支援を行った。</p> <p>園芸福祉に関して、春・冬の気候のいい時期や収穫時は積極的な参加があるが、夏・冬には参加できる方が2～3名となり、進め方を考える必要がある。レインボー農園も4年目を終えやっと畑らしくなってきたように思う。さつまいもの収穫前に畑が荒らされるという出来事があったが、次年度は収穫できるようよりやる気になっているようである。</p> <p>その他の主な内容</p> <table border="0"> <tr> <td>4月30日鯉のぼり見学</td> <td>5月14日たご焼き作り</td> </tr> <tr> <td>6月25日収穫したじゃが芋でカレー作り</td> <td>9月10日ポテトピザ作り</td> </tr> <tr> <td>9月24日秋祭り</td> <td>10月29日運動会</td> </tr> <tr> <td>12月3日熊野文化交流センター見学</td> <td>12月24日クリスマス会</td> </tr> <tr> <td>3月11日手作りおやつ</td> <td></td> </tr> </table>						4月30日鯉のぼり見学	5月14日たご焼き作り	6月25日収穫したじゃが芋でカレー作り	9月10日ポテトピザ作り	9月24日秋祭り	10月29日運動会	12月3日熊野文化交流センター見学	12月24日クリスマス会	3月11日手作りおやつ	
	4月30日鯉のぼり見学	5月14日たご焼き作り															
	6月25日収穫したじゃが芋でカレー作り	9月10日ポテトピザ作り															
9月24日秋祭り	10月29日運動会																
12月3日熊野文化交流センター見学	12月24日クリスマス会																
3月11日手作りおやつ																	
課題	毎年1名づつ参加者が減っている為、新規参加者の募集をする。																
その他(所感等)	収穫した野菜等を利用者で調理して食事会を行っており、好評を得ている。昼食準備とお口の体操など、自立支援を目的に利用者で当番制とさせていただいている。(自覚を持って行っていただいている。)																
自己評価		A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D	E											
改善への取組み・方向性		<p>H22年度も園芸福祉を継続していくために、園芸ボランティア等の協力を得ていくことが必要である。</p> <p>職員も他市町への見学や研修及び交流会も必要であると考え検討する。</p> <p>また、手作りおやつの実施(3ヶ月に1回程度予定)や野外活動(施設等の見学等)の実施などの取組みも継続して行っていきたい。</p> <p>収穫した野菜等を使った食事会など園芸福祉を楽しみながら充実していきたい。</p>															
特記事項		昨年度参加者人数 409名、(-69人)															
主任	石垣	副主任		係		記入者	石垣										

事業者名・事業名		生き生きデイサービス事業[町受託事業] (介護予防事業)					
対応する経理区分名		生き生き経理区分		利用対象者	虚弱高齢者等		
収入の状態		当初予算額	7,134,000	決算額	7,064,300	達成率	99.0%
事業の概要	目的	虚弱高齢者及び何らかの福祉的支援が必要な高齢者に対し、町福祉健康センターへ送迎、昼食、創作活動、レクリエーション活動等を通じて、生きがいと社会参加、健康増進を図ることにより、寝たきりや認知症から予防が出来、在宅老人が心身とも健康な生活が出来るよう支援する。					
	実施内容	町内を10地区に分けて地区ごとに月1回の割合で開催する。地区によって利用者の数は違うが、地区の利用者同士のつながりを大切にしながらサービスを提供する。 午前、健康チェックやリハビリ、軽体操、お口の体操、早口言葉、ゲーム等。午後は、食後の昼寝やトランプ遊び等で休憩していただいた後、らくらく体操、レクリエーション、おやつ、お誕生会などのプログラムとなっている。					
事業実績	年間延べ利用者数	ユリ	コスモス	ヒマワリ	ハマユウ	ボタン	
		神木、上市木	尾呂志	阿田和上地	阿田和A	阿田和B・山地	
		70	95	88	117	150	
		バラ	バラ	アヤメ	サクラ	サクラ	計
		下市木A	下市木B	引作、柿原、上市木	志原A、萩内団地	志原B	
		132	117	161	159	127	1,216
	総評	10地区で開催(延べ120回開催)延べ参加人数が昨対比94.5%(71名減)と、地区により利用者数に誤差が出てきた。阿田和地区では、新規参加者が増えているが、神木、尾呂志地区では減っている。原因として体調不良、体力低下、下肢筋力の衰え、認知症等の理由により欠席者や介護保険への移行したためである。また、前日・当日になって親戚や友人に不幸が重なり休まれた方が数名おられた。参加者が冬場になると、血圧が高めの方が多く見受けられた。介護予防事業の為、年3回～4回体力測定を行っており、役場の指導により、認知症予防・改善「頭の体操テキスト」を行った。(H22年度継続して行います)。また、御浜分署長さんによる高齢者防災教室を全地区で開催した。 志原A地区の開催日には、参加者の方がギターや三味線持参で唄などの指導をしていただき大好評を得た。					
	課題	山間部や過疎地区における利用者の減少(下肢筋力や体力低下)の反面、沿岸部では、参加者の方の声かけ等で利用者が増加している。参加者が多い時(10人以上)リハビリ等が時間内に終了しない。(8名～9名まで出来る。)さらに介護予防を目的にしていると言うことを各自認識していただく必要がある。男性の参加者が少ない。一人暮らし高齢者(閉じこもりの方)に参加を促す。					
	その他(所感等)	高齢化の為、65才～75才の人が参加できるアイデアや雰囲気作りが必要である。他市町村への見学研修の実施を検討する。また、体力測定やらくらく体操は継続していきたい。					
自己評価		A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D	E	
改善への取組み・方向性		特定高齢者(ハイリスク)の方が行っていた体操やリハビリを取り入れる。(特に下肢筋力低下の方。)また、自宅等でも行うよう勧める。 各地区の保育所園児や小学生等との交流会の開催。 高齢者交通安全教室、消防署員による火災・災害等の教室等の開催。					
特記事項		H21年度は全地区で40名(昨年32名)の方が皆勤賞受賞。(表彰状と賞品を提供)、感謝状2名(表彰状と賞品)					
主任	石垣	副主任		係		記入者	石垣

事業者名・事業名		福祉有償運送サービス事業（道路運送法第79条第3号）					
対応する経理区分名		介護保険経理区分	利用対象者	要介護及び心身障がい等の理由により単独で公共交通機関が利用できない方			
収入の状態		当初予算額	580,000	決算額	656,650	達成率	113.2%
事業の概要	目的	要介護者や障がいのある方など、公共交通機関を使用して移動することが困難な方を対象に、通院、公的機関への用務等を目的におこなう有償の送迎サービス。					
	実施内容	使用車両…福祉車両（普1台、軽3台）・一般車両（軽2台） 運転者…13名登録（内11名は兼務） 利用料金…片道2kmまで200円、その後2km増す毎に50円加算 利用目的…通院（96.4%以上） 通所（0%） 通学（0%） その他（3.6%未満） 利用日については原則として予約制。現状としては当日の申し込みも多い。					
事業実績	登録会員数	要介護者	要支援者	身体障がい者	精神障がい者	知的障がい者	計
		85	15	5	3	7	115
	年間延べ利用数	利用者数（延べ）	513	利用回数（年間）	1,978	走行距離数（年間）	10573,4km
	総評	昨年度と比べ、延べ利用者数は97.7%に減少しているが、年間の利用回数（113.9%）や走行距離数（111.1%）は増加しており、同利用者の利用率が高くなっていた。 また、利用目的は通院が中心で、通所や通学のための利用はなかった。その他の目的としては、美容室（カット）、福祉施設（ショートステイ利用）、金融機関等（出金）への送迎が3.6%未満であった。 更に、利用の形態としては、病院やその他の目的地ではヘルパーの介助を必要としない（一人で移動が可能、又は家族の付き添いがある方）の送迎のみ（乗降介助）のサービスを利用される方が多く、全体の55.0%以上を占めていた。					
課題	利用者の受診日が同日に集中する事が多く、予約以外の急な申し込みも多いため、計画的な運行を図ることが困難になり苦慮している。またヘルパー等の資格が必要な運転者の、送迎のみのサービス利用が多くなり、訪問介護業務との調整に苦慮している。						
その他（所感等）							
自己評価	A <input checked="" type="checkbox"/> B    C    D    E						
改善への取組み・方向性	運転者の増員を行い、更にケアマネジャーや利用者との連携を強化し、福祉有償運送と訪問介護サービスがスムーズに提供でき、より質の高いサービスの提供を目指して努力していく。						
特記事項							
主任	赤崎	副主任		係	長田	記入者	赤崎

事業者名・事業名		あゆみの会（在宅身体障がい者への支援事業）				
対応する経理区分名		地域福祉経理区分 （自主財源）	利用対象者	在宅の身体障がい者等のうち、あゆみの会への参加を希望される方		
事業の概要	目的	町福祉健康センターで、在宅の身体障がい者を対象として自立と生きがいを高めることを目的に、毎月隔週火曜日（第一、三火曜日の2回）に開催。				
	実施内容	引き続き参加者自身が自分たちで考える自主運営として、「ふれあいサロン」的なイメージで開催。職員は、支援として送迎等を行う。時間は午後1時30分～3時30分。（内容により午前の開催も有り） サービス内容は、らくらく体操、レクリエーション、創作活動を提供する。また、年2～4回程度、社会見学のために外出を行い、思い出や楽しみ作りを支援する。参加者の自主性を尊重し、おやつを食べながら次回の予定を決めるようにしている。				
	利用料	参加費750円（会員独自会費が別途150円）				
事業実績	年間延べ利用者数	167名				
	総評	<p>昨年177名で昨対比 94.4%の状況である。（-10名）、結果として3名の新規の方が見えたが2名の方が都合より中止となる。          外出やおやつ作りなどで交流を図った。参加費とは別に会員独自で会費を集め、そのお金でおやつを購入し、コーヒーなどは会員が自宅から持ち寄っている。          紀南圏域障害者総合相談センター「あしすと」（障がい者担当者1名）からも随時参加があった。</p> <p>H21年度の主な内容          花見、たこ焼き、カラオケ、ビデオ鑑賞（藤山寛美・綾小路きみまろ）、焼きそうめん、ポテトピザ、室内グランドゴルフ、トランプ、運動会、すし会食、ビンゴ、寄せ植え、寄せ鍋、町食改推進協議会主催による調理実習・試食会（6名参加）          中でもトランプゲーム（二人一組になって）は、とても好評でした。視覚障害者の方には、点字入りを使用したため全員が参加することができた。</p>				
	課題	サロンなら2時間で参加費が200円であるが、「あゆみの会」は、公的な給付制度に該当しないため、参加費＋会員会費で合計900円となるので参加者の負担感はあると考える。このような中で継続するか、しないかの話し合いを行うと、どちらでも...と考える方もいるが、強く継続を願う参加者がいる事も事実である。平成22年3月に女性参加者1名病気にて欠席中となっている。				
	その他（所感等）	参加者の中には、この事業しか利用していない方がおられる。また事業の継続を願う声もあり、廃止することは簡単だが再度事業立上げは厳しい状況にある。社協の役割として、出来るだけ参加者の自主性を尊重し、側面から支援していきたい。				
自己評価		A	B	<input checked="" type="checkbox"/> C	D	E
改善への取組み・方向性		近隣市町との共催により開催出来ないか検討する必要がある。常時10名程度で開催ができれば運営も安定する。				
特記事項		現在の参加者が一番まとまっているように見える。				
主任	石垣	副主任		係		記入者 石垣